

平成22年度

大磯町教育委員会 の 点検・評価

(平成21年度対象)

大磯町教育委員会

平成22年9月

目次

はじめに

1	教育委員会とは	P 2
2	点検・評価の趣旨	P 3
3	点検・評価の対象	P 3
4	点検・評価の流れ	P 4

I 教育委員会の活動についての点検・評価

1	平成21年度教育委員会活動一覧	P 5
2	項目別活動状況	P 6
3	項目別点検・評価（内部評価）	P 2 5
4	学識経験者による評価（外部評価）	P 2 8

II 「平成21年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

1	義務教育	P 3 1
2	子育て支援	P 3 6
3	生涯学習	P 4 1
4	図書館	P 4 4
5	郷土資料館	P 4 7

III 資料編

1	関係法令	P 5 0
2	「教育委員会定例会議事録」掲載ホームページアドレス	P 5 0
3	平成21年度教育委員会基本方針	P 5 1

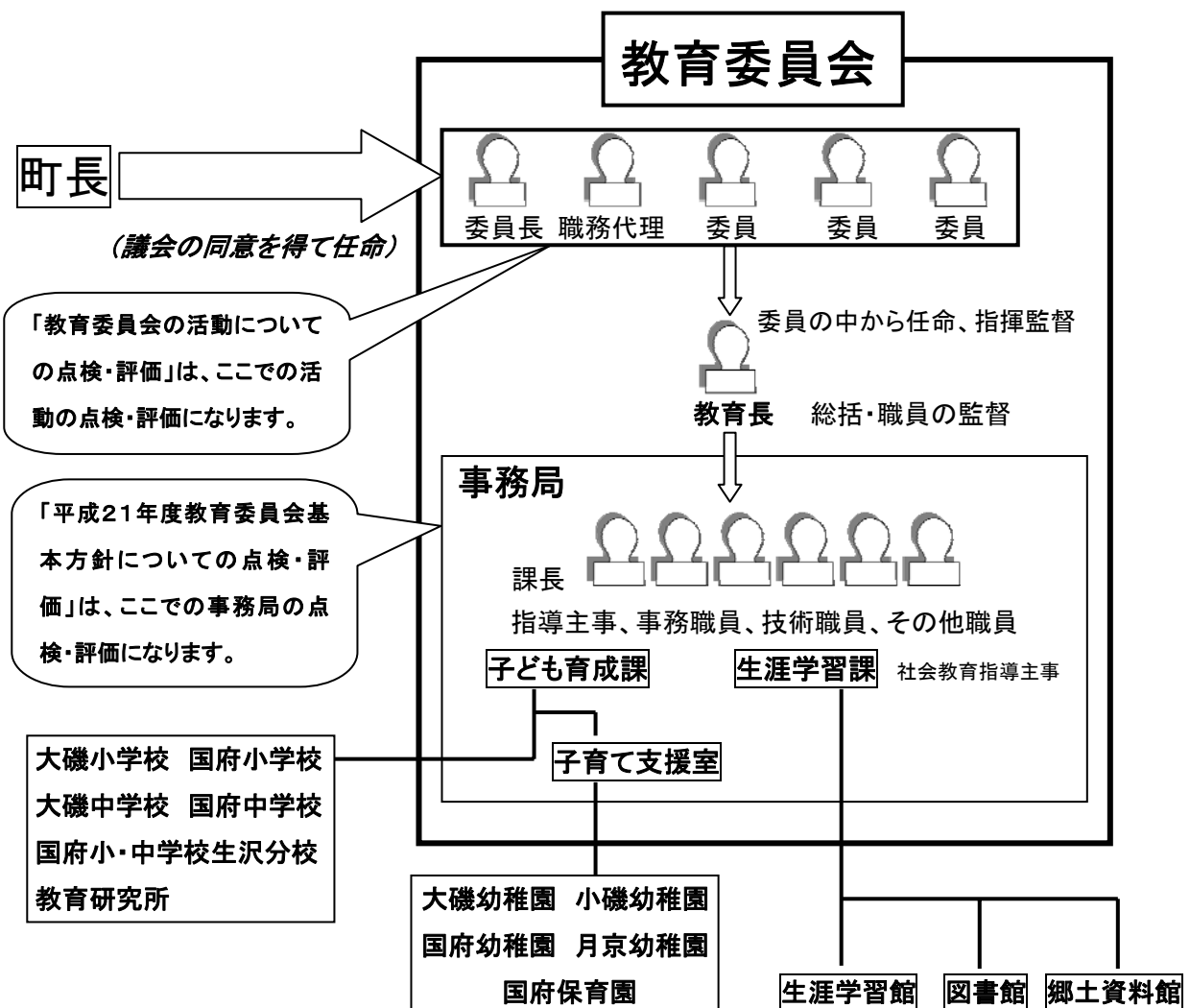
はじめに

1 教育委員会とは

(1) 教育委員会制度

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の定めにより、教育に関する事務を処理するため、都道府県、市町村等に設置される合議制の執行機関です。

- 大磯町教育委員会は、5人の委員から構成されています。
- 大磯町教育委員は、町長が議会の同意を得て任命します。教育委員の任期は4年で、再任されることもできます。
- 委員長は、委員の中から互選で選ばれ、教育委員会を代表し、教育委員会の会議を主宰します。委員長の任期は1年ですが、再任されることもできます。
- 教育委員会の権限に属する事務を処理するため、教育委員会に教育長と事務局が置かれています。
- 教育長は、委員長以外の委員の中から教育委員会が任命します。教育長は、教育委員会の指揮監督の下、すべての事務をつかさどります。
- 事務局は、教育長の統括のもと、教育委員会の権限に属する事務を処理します。事務局の組織は、それぞれの教育委員会の規則で定められています。



(2) 教育委員会の仕事

- ・学校その他の教育機関の設置、管理、廃止、教育財産の管理に関すること。
- ・教育委員会及び学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- ・学齢生徒及び学齢児童の就学並びに生徒、児童の入学、転学及び退学の事務、また、幼児の入園、転園及び退園の事務に関すること。
- ・学校の組織編制、教育課程、学習指導、生徒指導及び職業指導に関すること。
- ・教科書その他の教材の取扱いに関すること。
- ・校長、教員その他の教育関係職員の研修、教育関係職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、安全厚生及び福利に関すること。
- ・学校給食に関すること。
- ・保育の実施に関すること
- ・子育て支援に関すること
- ・青少年教育、文化財の保護及びその他社会教育に関すること。
- ・教育に係る調査及び指定統計その他の統計に関すること。
- ・教育行政に関する相談に関すること。
- ・その他「地方教育行政の組織および運営に関する法律」に規定されている教育事務に関すること。

2 点検・評価の趣旨

平成 19 年 6 月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され（平成 20 年 4 月 1 日施行）、各教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされました。

本町教育委員会では、法改正の趣旨が教育委員会の責任体制を明確化することにより、効果的な教育行政の推進と地域住民への説明責任を果たすことであると捉え、「教育委員会の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

3 点検・評価の対象

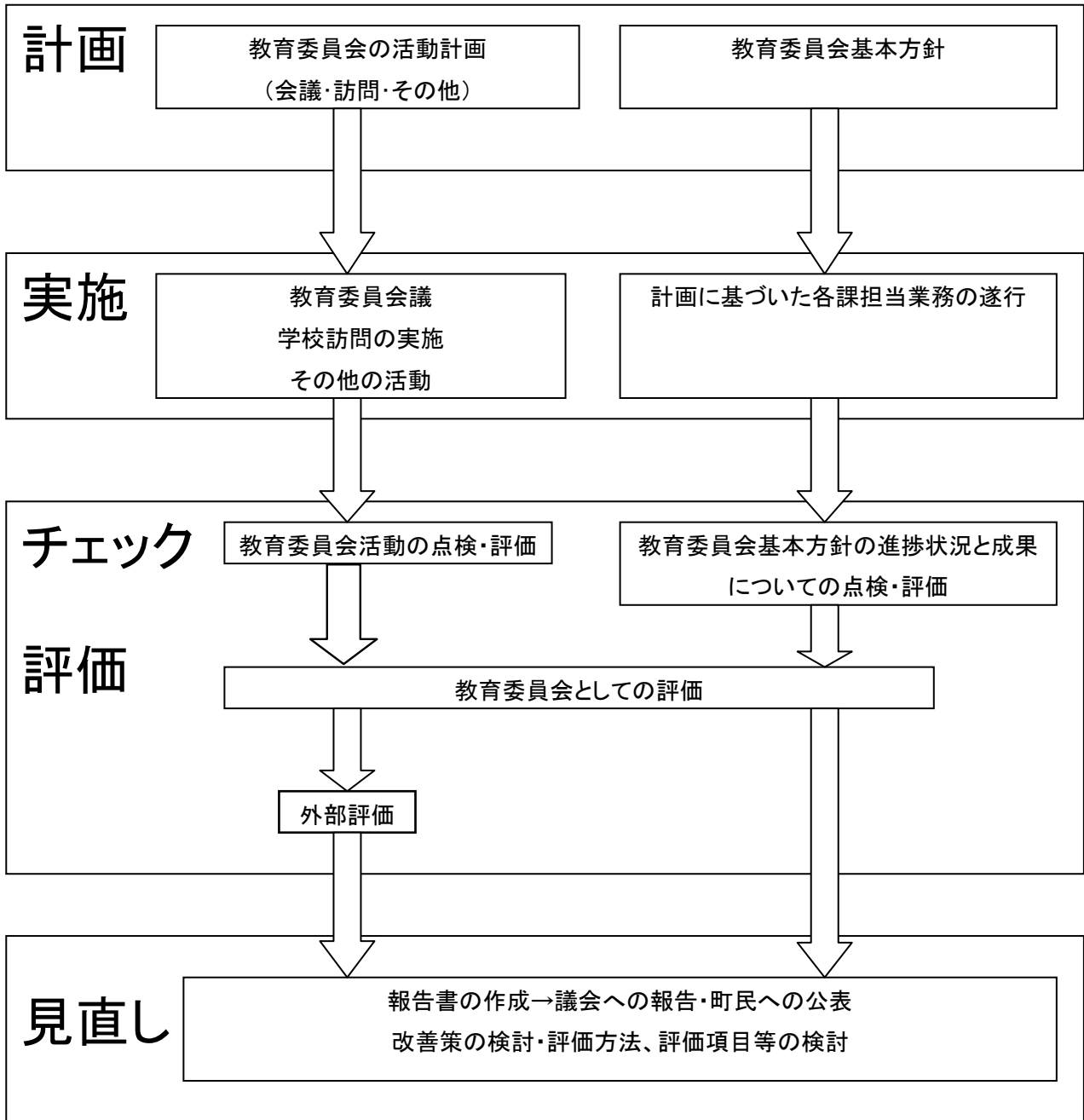
(1) 教育委員会の活動についての点検・評価

平成 21 年度の教育委員会の活動を項目別に点検し、自己評価及び課題・改善点等についての内部評価を行い、その後、学識経験者からの外部評価をいただき、今後の課題と対応についてまとめました。

(2) 「平成 21 年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

平成 21 年度教育委員会基本方針に掲げられている各分野の目標に対する重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策について、その実施状況を点検し、実施状況及び成果と課題をまとめ、その後、教育委員による評価を行いました。

4 点検・評価の流れ



I 教育委員会の活動についての点検・評価

1 平成21年度教育委員会活動一覧

		内 容 等
教育委員会議	定例会	12回（毎月1回）
	臨時会	2回（11月、3月）
事務連絡調整会議		17回（定例会後及び適宜）
意見交換会・懇談会	PTA役員	2回（7月、12月）大磯町立学校PTA連絡協議会役員との懇談会
	地域住民 保護者	5回 大磯中学校「地域ふれあいの集い」（9/19） 国府中学校「地域フォーラム」（8/29・30, 9/5・12）
訪問	幼稚園 保育園	3回（5月、8月、2月）
	学校	5回（6月、9月、10月、11月、1月）
	行事等	運動会（体育祭）、文化祭、授業（保育）参観 生涯学習関係事業、研究所関係事業、その他町の行事等
その他の活動		関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会 神奈川県市町村教育委員会連合会総会及び研修会

2 項目別活動状況

(1)教育委員会議

平成21年度第1回定例会〔平成21年4月15日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第1号	平成21年4月補正予算における教育委員会予算要求について
	議案第2号	大磯町立学校職員の勤務時間の割振り等に関する規程の一部を改正する規程について
	議案第3号	大磯町立学校職員服務規程の一部を改正する規程について
	議案第4号	大磯町教育委員会教育委員の辞職の同意について
	議案第5号	大磯町教育委員会教育委員長職務代理者の指定について
報告事項	報告事項第1号	平成20年度大磯町立中学校生徒の進路状況について
	報告事項第2号	平成21年度学級編制及び教職員の配置状況について
	報告事項第3号	子育て応援特別手当申請事務状況について
	報告事項第4号	郷土資料館企画展について
	報告事項第5号	教育委員会訪問事業について

平成21年度第2回定例会〔平成21年5月20日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第6号	平成22年度大磯町立小・中学校で使用する教科用図書の採択方針について
	議案第7号	学校教育法施行細則の一部を改正する細則について
報告事項	報告事項第1号	(仮称)月京幼稚園新築工事概要について
	報告事項第2号	国府中学校校舎耐震改修工事概要について

平成21年度第3回定例会〔平成21年6月17日開催〕

事項	番号	案件名
報告事項	報告事項第1号	平成21年度大磯町議会6月定例会について
	報告事項第2号	(仮称)子育て支援総合センター建設について

平成21年度第4回定例会〔平成21年7月22日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第8号	大磯町立中学校で使用する教科用図書の採択について
	議案第9号	大磯町立小学校で使用する教科用図書の採択について
	議案第10号	平成21年7月補正予算における教育委員会予算要求について
報告事項	報告事項第1号	郷土資料館企画展について ～「宮代周輔 植物コレクション展」～
	報告事項第2号	文化財専門委員の委嘱について
	報告事項第3号	大磯町立幼稚園統合等検討委員会について

平成21年度第5回定例会〔平成21年8月19日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第11号	大磯町立学校教職員安全衛生管理規定の制定について
	議案第12号	大磯町郷土資料館の休館日の変更について
報告事項	報告事項第1号	平成20年度教育委員会所管決算見込みについて
	報告事項第2号	(仮称)子育て支援総合センター建設について
	報告事項第3号	大磯町立幼稚園統合等検討委員会の報告について

平成21年度第6回定例会〔平成21年9月30日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第13号	大磯町教育委員会委員長の選挙について
	議案第14号	大磯町教育委員会委員長職務代理者の指定について
協議事項	協議事項第1号	社会教育施設の有料化等について
報告事項	報告事項第1号	大磯町議会9月定例会について
	報告事項第2号	中学校部活動の夏の大会結果について
	報告事項第3号	第56回おおいそ文化祭の開催について
	報告事項第4号	伊藤博文没後100年記念事業について

平成21年度第7回定例会〔平成21年10月21日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第15号	大磯町スポーツ振興審議会委員の任命について
協議事項	協議事項第1号	大磯町立幼稚園統合等検討委員会の意見について

平成21年度第8回定例会〔平成21年11月18日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第16号	平成21年12月補正予算における教育委員会予算要求について
	議案第17号	大磯町立の中学校等の設置に関する条例の一部を改正する条例について
	議案第18号	大磯町立図書館の設置、管理等に関する条例の一部を改正する条例について
	議案第19号	大磯町郷土資料館の設置、管理等に関する条例の一部を改正する条例について
	議案第20号	大磯町生涯学習館条例の一部を改正する条例について
	議案第21号	大磯町教育委員会表彰規程の一部を改正する規程について
報告事項	報告事項第1号	財産の取得について「小学校ほか地上デジタル放送対応テレビ購入」
	報告事項第2号	図書館まつりの開催について
	報告事項第3号	第56回おおいそ文化祭の実施報告について
	報告事項第4号	インフルエンザの状況について

平成21年度第1回臨時会〔平成21年11月24日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第22号	大磯町教育委員会の点検・評価について
協議事項	協議事項第1号	平成22年度教育委員会当初予算要求に係る協議について

平成21年度第9回定例会〔平成21年12月16日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第23号	大磯町立図書館の臨時休館について
報告事項	報告事項第1号	平成21年大磯町議会12月定例会について
	報告事項第2号	平成20年度生徒指導上の諸問題の現状について
	報告事項第3号	平成21年度大磯町成人式・新成人記念のつどいの開催について
	報告事項第4号	伊藤博文没後100年記念事業の実施報告について

平成21年度第10回定例会〔平成22年1月20日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第24号	平成22年度当初予算における教育委員会予算要求について
協議事項	協議事項第1号	次世代育成支援地域行動計画(後期計画)【素案】について
報告事項	報告事項第1号	第8回図書館まつりの実施報告について
	報告事項第2号	平成21年度大磯町成人式・新成人記念のつどいの実施報告について

平成21年度第11回定例会〔平成22年2月17日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第25号	平成22年3月補正予算における教育委員会予算要求について
	議案第26号	大磯町横溝千鶴子記念子育て支援総合センター条例の制定について
	議案第27号	大磯町立の中学校等の設置に関する条例の一部を改正する条例について
	議案第28号	大磯町教育委員会表彰規程に基づく被表彰者の決定について
報告事項	報告事項第1号	旧吉田茂郎再建基金募金協力事業／大磯町郷土資料館春季企画展「研師 人間国宝 永山光幹」の開催について
	報告事項第2号	財産の取得について

平成21年度第2回臨時会〔平成22年3月12日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第29号	大磯町教育委員会関係職員の職の設置等に関する規則の一部を改正する規則について
	議案第30号	大磯町立図書館の設置、管理等に関する条例施行規則の一部を改正する規則について
	議案第31号	大磯町郷土資料館の設置、管理等に関する条例施行規則の一部を改正する規則について
	議案第32号	大磯町生涯学習館条例施行規則の一部を改正する規則について
協議事項	協議事項第1号	平成22年度教育委員会基本方針について

平成21年度第12回定例会〔平成22年3月24日開催〕

事項	番号	案件名
付議事項	議案第33号	平成22年度教育委員会基本方針について
	議案第34号	中地区教科用図書採択協議会の設置について
	議案第35号	大磯町立幼稚園の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
	議案第36号	大磯町郷土資料館の休館日の変更について
	議案第37号	県費負担教職員の任免に係る内申について
	議案第38号	教育委員会事務局職員及び教育施設等の職員の人事異動について
報告事項	報告事項第1号	平成22年大磯町議会3月定例会について
	報告事項第2号	大磯町次世代育成支援地域行動計画(後期計画)【案】について
	報告事項第3号	大磯町立図書館の蔵書点検による休館について

(2) 事務連絡調整会議

月 日	内 容
4.15 第1回 事務連絡調整会議	<ol style="list-style-type: none"> 1 大磯町史ダイジェスト版について 2 国府中学校校舎耐震改修工事概要について 3 新月京幼稚園工事について 4 (仮称) 子育て支援総合センター建設工事について 5 教育委員会の決定事項に関し、在園児および住民に対する説明・報告を求める要望書について
5.20 第2回 事務連絡調整会議	<ol style="list-style-type: none"> 1 おはなしボランティア入門講座実施計画について 2 図書館の昼食スペースの開設について 3 2009湘南国際マラソンについて 4 (仮称) 子育て支援総合センター建設工事について 5 中学校運動会の参加について 6 小磯幼稚園訪問について 7 小磯幼稚園統合についての保護者説明会の概要について 8 新型インフルエンザの対応について 9 国の平成21年度第1次補正予算に係る経済危機対策予算について 10 中学校教科用図書採択について 11 子育て支援特別手当申請事務状況について 12 大磯町高等学校等就学支援補助金制度について 13 議会への報告について (繰り越しの報告等)
5.29 第3回 事務連絡調整会議	<ol style="list-style-type: none"> 1 中学校教科用図書について 2 新型インフルエンザ流行に伴う修学旅行の基本的な考え方について
6.17 第4回 事務連絡調整会議	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成21年5・6月のウミガメの確認状況について 2 大磯町立幼稚園統合等検討委員会作業部会の概要について 3 中学校教科用図書について 4 平成21年度大磯町立大磯中学校「聴講生の募集」の概要について 5 補正予算について 6 国府幼稚園耐震改修工事概要について 7 平成21年度学校水泳実施計画について (大磯ロングビーチ) 8 国府中学校訪問について 9 教育委員会点検・評価について 10 地域の方との話し合い (地域フォーラム) について
7.2 第5回 事務連絡調整会議	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科用図書採択関係勉強会
7.22 第6回 事務連絡調整会議	<ol style="list-style-type: none"> 1 新教育委員について 2 国府保育園訪問について 3 国府中学校地域フォーラム、大磯中学校「地域ふれあいの集い」について 4 大磯町立学校教職員安全衛生管理規程 (案) について 5 国の運用指針改定に伴う医療提供体制等の変更の概要について 6 教育委員会点検・評価の提出について 7 月京幼稚園プール開放について 8 新月京幼稚園安全祈願祭について 9 芝生の移植について 10 鎌倉プリンスホテルより中古エレクトーン寄贈について 11 旧吉田茂邸基金への協力について 12 電子黒板デモンストレーションについて

月 日	内 容
8. 19 第7回 事務連絡調整会議	1 伊藤博文没後100年記念事業について 2 ウミガメのその後の状況について 3 教育委員会点検・評価について 4 幼稚園及び小・中学校運動会・体育祭の参加について 5 平成21年度教育委員会関係行事（9月から12月）について
9. 30 第8回 事務連絡調整会議	1 町史ダイジェスト版刊行特別講座～大磯町の歴史に親しむ～実施計画について 2 2009アカウミガメの記録 3 郷土資料館出水事故について 4 O I S Oチャレンジフェスティバル2009の開催について 5 教育委員会点検・評価（内部評価）について 6 新型インフルエンザの感染拡大防止について 7 大磯湘南和太鼓ワークショップと公演について 8 全国学力・学習状況調査について 9 平成21年度大磯町総合防災訓練について
10. 5 第9回 事務連絡調整会議	1 作業部会の要望について
10. 21 第10回 事務連絡調整会議	1 12月補正予算について 2 （仮称）子育て支援総合センター条例（案）等について 3 新幼稚園名称募集応募用紙について 4 学校施設開放の使用料について 5 第1回外部評価委員会以降の経緯について 6 私立幼稚園誘致に関するアンケート調査（案）について 7 市町村教育委員会連合会研修会について 8 市町村教育委員会連合会役員について 9 大磯町立幼稚園統合等検討委員会と教育委員との懇談会について
11. 18 第11回 事務連絡調整会議	1 図書館コンピュータシステムの更新と工事について 2 伊藤博文没後100年記念講演会について 3 私立幼稚園誘致に関するアンケート調査状況について 4 （仮称）大磯町子育て支援総合センター事業実施計画（案）について 5 教育委員会点検・評価について 6 全国学力・学習状況調査について 7 第4次行政改革実施計画について 8 牛乳パックの処理について 9 磯P連との懇談会について 10 人事について
11. 24 第12回 事務連絡調整会議	1 平成22年度教育委員会当初予算要求について
12. 15 第13回 事務連絡調整会議	1 予算要求について 2 幼稚園の統合に係る条例改正について
12. 16 第14回 事務連絡調整会議	1 大磯町立図書館の窓口業務委託について 2 大磯町における全国学力・学習状況調査結果について 3 「平成21年度大磯町教育委員会の点検・評価（平成20年度対象）」報告書について（提出） 4 次世代行動計画について 5 磯P連との懇談会の内容について 6 人事について

月 日	内 容
1. 20 第15回 事務連絡調整会議	1 町史ダイジェスト版刊行特別講座と映画会について 2 有隣堂への業務委託について 3 委託有隣堂の講座(白洲正子)について 4 郷土資料館企画展について 5 使用料の審議経過について 6 大磯一周駅伝大会結果について 7 大磯町立学校PTA連絡協議会研修会・例会及び懇親会について 8 平成22年度教育委員会基本方針について 9 たかとり幼稚園及び(仮称)子育て支援総合センター建設工事工程表について 10 教育施設工事等執行状況表について 11 その後の幼稚園の統合に係る経過と説明会について 12 平成22年度教育委員会定例会及び学校訪問について 13 人事について
2. 17 第16回 事務連絡調整会議	1 有隣堂自主企画講演会「白洲正子という生き方」について 2 児童文学講演会について 3 臨時会について(使用料、変更契約、平成22年度教育委員会基本方針) 4 平成22年度教育委員会基本方針(案)について 5 卒業式等の出席調整について 6 中学校の学級編制について 7 平成22年大磯町議会3月定例会一般質問について 8 月京幼稚園訪問について 9 人事について
3. 24 第17回 事務連絡調整会議	1 入学式の参加について 2 平成22年度教育委員会定例会及び学校訪問等の予定について 3 たかとり幼稚園竣工式について 4 郷土資料館企画展(人間国宝永山光幹)について

(3)意見交換会・懇談会

①大磯町立学校PTA連絡協議会役員との懇談会

日 時	平成21年7月11日(土)	
場 所	大磯町保健センター 2階研修室	
日 程	開会 あいさつ 自己紹介	10:30
	教育委員会の仕組みについて(教育長)	10:40～
	懇談	10:50～
	閉会	12:00
事務局参加者	教育長、子ども育成課長、生涯学習課長、子ども育成課主幹、子育て支援室長	
大磯町立学校PTA 連絡協議会参加者	各幼稚園・学校PTA本部役員(計23人)	
懇談会の主な内容	<p>①教育委員会の仕組みについて(教育長)</p> <p>②教育長からの話題提供</p> <p>○ 17日から夏休みとなる。親子のふれあい、親が持っている価値観・人生観を子どもに伝えてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長をじっと待つことも必要だと思った。 ・自分のことを思い出すと、男女で違うと思うが中学生ならば放っていても大丈夫だと思う。日頃自分の子どもを見る見方を変えたほうがいいのかと感じた。 ・子どもに「自分でやる」という生活習慣を身につけさせることも必要と思う。(委員) ・小学校5・6年生くらいから中1ギャップをなくすことを考えたかどうか。 ・親が先生のことを判断してしまっているから子どもにその判断が伝わってしまう。 ・子どもとの信頼関係を築くためにも親とのコミュニケーションをしっかりととっていく必要がある。(委員) ・家庭・子どもの前で教師のことを悪く言ってしまうと学校で子どもが教師の話聞かなくなってしまう。(委員) <p>③続ケータイについて</p> <p>○ 親として持たせるか持たせないか?このケータイについてどう考えるか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校には携帯持込に関する通知を出した方がいい。→学校に通知を出している。 ・学校だけではなく親も責任を持つ。学校に持ってきた場合には、朝担任に預けて職員室で管理する。 ・使い方を親がしっかりと子どもに伝えるべき。小学校では話題に上っていない。 ・学校に携帯を持ってきてはいけないということだが、なぜいけないのか等を子どもにしっかりと伝えてほしい。 ・家庭でも同様にしつけをしていくことが重要だと思う。(委員) ・持ち込む、持ち込まないということは原則各家庭で判断すべき。(委員) <p>④その他～各幼稚園・学校のPTAからの要望～</p> <p><大磯小></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館2階部分の窓が危険と聞いている。 ・放課後子ども教室の状況はどうなっているかよく分からない。 <p><国府小></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校プールについてなるべく早く建設してもらいたい。 ・学校備品の関係で、バザー収益金で机イスを購入しているが、机イスと図書館用図書を予算措置してもらいたい。 ・各学校の図書館を見たが、町の図書館も含めて全小・中学校で相互貸出のシステムを導入したらどうか? <p><大磯中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書整理員さんを継続して採用してほしい。 ・小学校で使用しているテストは、高学年では中学校のように手づくりのテストがあってもよいのではないかと? <p><国府中></p> <ul style="list-style-type: none"> ・プールの件は、平成24年以降小学校のプールを使用するということでもいいか? ・グラウンド改修を何とかしてほしい。 ・体育のマットがひどい状況となっている。交換してほしい。 ・富士見地区のコミバスの時間帯を考えていただけないか ・登下校で使用する通路にガードレールがない部分がある。 <p><国府幼></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お弁当がある時、年少と年中・年長との降園時間が異なるので大変不便である。 <p><月京幼></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移転について来週火曜日説明があるということですのでよろしくお願ひしたい。 	

日 時	平成21年12月19日(土)	
場 所	大磯町保健センター2階研修室	
日 程	開会 あいさつ 自己紹介	10:00
	教育長から町立幼稚園の将来構想について	10:10～
	懇談	10:50～
	閉会	12:00
事務局参加者	教育長、子ども育成課長、図書館長、子ども育成課主幹、子育て支援室長	
大磯町立学校PTA 連絡協議会参加者	各幼稚園・学校PTA本部役員(計25人)	
懇談会の主な内容	<p>○第1回懇談会での学校・幼稚園からの質問・要望に対する回答 ○教育長より、町立幼稚園の将来構想について決定事項を伝える ＜懇談＞</p> <p>①中1ギャップ・小1プロブレムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校や課題を抱えている子どもの数について具体的な情報が保護者にはない。 ・不登校は減少してきている。低学年で問題が起きて、中1→中3へと増える傾向は大磯町も同様。 ・小学校から中学校にいて、成績の付け方にギャップがあるように感じる。 ・進学を楽しみにしている。国府小は教科担任制がいい影響と感じている。 ・定期テストの平均点を出してもらえず、自分がどんな位置にいるかわからない。 ・相対評価から絶対評価となり目標に準拠した評価となり、他人と比べてではない。 ・中1ギャップの出方はいろいろ。暴力行為。学習面。部活動。友人関係の変化。 ・中1ギャップ＝不登校ではない。小1プロブレムも一緒。一番大きいのは友だち関係。人との関係をどのように小さいうちから育てていくかが重要である。 ・中学校はわからないことが多いので、親も伝えきれない。小学校と中学校では違いがある。 ・訪問で感じることは、幼稚園でなじめない子がそのまま小学校に入ってくることもあると思う。 ・心配りすることを教師は努力していると信じている。 ・中学生になると親にわからないことも多く、友だちが大事になってくる。親が我慢して待てるようにしたい。 <p>②その他～各幼稚園・学校のPTAからの要望～</p> <p>＜大磯小＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政権交代により変化することは →太陽光発電、テレビ、電子黒板が凍結状態になったが、変わらず導入できることになった。 <p>＜国府小＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープン教室のメリット・デメリットをどう想定して建てたのか。教員が認識して対応し、検討しているか。インフルの問題、暖房の問題、子どもが走り回る問題…。簡易間仕切り等を考えてほしい。話合いをしてほしい。 <p>＜大磯中＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型インフルについて治癒証明の必要性は？不要という通知も出ているはず。病院は混雑している。平塚の病院では不評である。 <p>＜国府中＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハンデを持っている子に対応できる人が少ないので、増やしてほしい。 ・牛乳パック回収については？洗う時間がかかる。水質汚濁につながる。 <p>＜小磯幼＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は不安に思いながら過ごしてきた。12月議会の結果、また今後への不安を抱くことになった。課題はあると思うがスケジュールどおり進めてもらえるとうれしい。 ・ファミリー教室を開催しているが、実際は役員が時間をつくっている。生涯学習課で対応してほしい。 <p>＜国府幼＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフル感染園児が多かった。集団生活の場にアルコール消毒の準備ができなかったのか。寄付をした。 <p>＜月京幼＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たかどり幼稚園移行に伴い、通園路の見直しが生じてくる。安全に通えるようにしたい。 	

②中学校地域フォーラム・地域ふれあいの集いへの参加

日 時	平成21年 8月29日(土) 8月30日(日) 9月 5日(土) 9月12日(土)			
場 所	馬場老人憩いの家	生沢会館	虫窪老人憩いの家	中丸会館
日 程	学校長あいさつ			各地区ごとで 設定 各地区約90分間
	大磯警察から			
	グループ討議と全体での発表			
	PTA会長から			
教育委員会参加者	各教育委員、事務局職員			
学校・地域等参加者	各地区役員、PTA役員、各地区保護者、民生児童委員 保護司、青少年補導員、学校職員等			
懇談会の主な内容	【大磯警察から】 ・犯罪発生状況の概要 ・少年犯罪全般について ・地域住民とのかかわりについて 【グループ協議】 ・大磯警察からのお話しを受けて ・生徒を取り巻く環境問題 ・登下校などの安全について ・地域・家庭・学校とのかかわり方、地域から見た国府中学校 ・携帯電話のマナー・使い方・チェーンメールへの対応・インターネットの使い方など ・言葉遣いと身だしなみについて ・中学校の将来について			

日 時	平成21年9月19日(土)	
場 所	大磯中学校体育館	
日 程	PTA会長あいさつ	14:30
	各グループごとに出席者自己紹介	14:40
	グループごとに懇談会	14:50
	グループごとの発表	15:45
教育委員会参加者	各教育委員、事務局職員	
学校・地域等参加者	各地区役員、PTA役員、各地区保護者、民生児童委員 保護司、青少年補導員、学校職員等	
懇談会の主な内容	【各グループからの主な話題等】 ・前段で公開した授業の感想 ・最近の大磯中の生徒の様子について ・大磯中の生徒と地域のかかわりについて …左義長、松並木の清掃、高麗神社のお祭りの太鼓の指導等 ・中学生の家庭に対するアドバイスや意見など …先生方への感謝、授業のこと、地域での子ども様子から学校へのアドバイス 制服についての様々な考え方、携帯電話、塾通いについて等 ・文化祭について …先生と生徒ともに取り組む姿勢についての評価、1日開催について 打ち上げについての是非 ・運動会について …縦割りについて、子ども主体の行事であることへの理解 ・その他 …思春期を迎えた子どもに対する様々なかかわり方について	

(4) 訪問

① 学校・幼稚園訪問

訪問学校・園名	小磯幼稚園	
日 時	平成21年5月20日(水) 12:45～15:00	
日 程	開会	12:45
	保育参観	12:45～13:30
	職員との懇談	13:45～15:00
	閉会	15:00
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	小磯幼稚園職員全員、教育支援員	
懇談会の主な内容	<p><開会挨拶></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年保育のよさを実感している。子どもたち同士でいろいろ学び合っているのは、素晴らしいことだ。先生方の日ごろの指導の成果が表れていると言える。教育委員会としてもサポートしていきたいと思う。 <p><園長挨拶></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりを大切にしながら保育をしている。保護者との連携も密に行っている。年度当初、先生方をお願いした3つのキーワードは、「ネットワーク」「フットワーク」「アットホーム」ということだ。特別に支援を必要とする幼児に対して、組織として適切な指導を行うことができるように研究をしていきたい。専門家に的確なアドバイスをもらえる巡回相談は非常に役立っている。 <p>【園から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園全体でいろいろな取り組みができる。先生全員で子どもを見守っている。 ・年少担任が子どもを帰した後、クラスに入ってくれる。園全体の協力で保育をしている。 ・小学校の授業を参観して、年長の1年間で何を身に付けさせたらよいのか、考えさせられた。 <p>【懇談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の3年間は、子どもの変化が大きい。先生方の指導で子どもは変わるので、頑張ってもらいたい。 ・先生方のチームワークのよさの話が出たが、その大切さは実感している。子どもをたくさん目で見えていくことが大切だ。 ・教頭を中心に素晴らしいチームワークで取り組んでいる。各学年が1クラスのため、学年間の交流が多くなっている。お弁当をいっしょに食べる機会も多い。 ・子どものチームワークのよさにも感心した。先生方は子どもを遊び上手に育てている。この時期の外遊びは子どもの脳を活性化させると聞いた。園庭の環境もよい。 ・先ほど入学に向けて、何を身に付けさせたらよいのかという話があったが、1年生を担当した経験から、まず生活の自立を挙げたい。家庭とも協力する必要がある。また、学力の基礎となる「話を聞く」ということや挨拶ができるなどの社会性も重要だ。 ・幼稚園と小学校でお互いの保育や授業の参観を進めてほしい。 ・発達障害等、親の認識がないことで状態を悪くしていることが多々見られる。特別支援の視点から、幼稚園と子育て支援センターとの連携を深めたい。 ・幼稚園児の場合、幼さゆえの行動と保護者が勘違いすることがある。家族の認識が甘く、アプローチが難しい。 ・保護者も感じてはいるが、認めることができないのだと思う。自分の子どもと周りの子どもの様子の違いを見てもらう機会を設けることが必要だ。 <p><閉会挨拶></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方のご苦勞がよく分かった。これからもよろしくお願ひしたい。 	

訪問学校・園名	国府中学校	
日 時	平成21年6月17日(水) 13:20～16:40	
日 程	開会	13:20
	授業参観1(5校時)	13:30～14:20
	授業参観2(6校時)	14:30～15:20
	懇談会	15:40～16:40
	閉会	16:40
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、各担当教員	
懇談会の主な内容	<p><学校長挨拶> <自己紹介> 【教育活動の概要説明】 <教務主任>・教育課程全般について説明 <1学年主任><2学年主任><3学年主任>・各学年の特徴等について <ふれあい担当><生徒指導担当><養護教諭>・各担当より特徴や年度始めの様子について説明 <生徒活動支援グループ担当>・委員会活動や部活動について</p> <p>【懇談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特活の時間はどのようなものか？ →学校行事の話し合い、学級の話合いなど。 ・特活が週1時間では本当に厳しいと思う。 ・部活動加入率が高く、頼もしい。部活に入っている生徒は委員会活動等もあわせてやっているのか？ →活動的な生徒は掛け持ちの子が多い。 ・選択の時間が、個人選択から学校選択としたということだったが、どういうことか？ →昨年までは、個人選択で5コースの中から生徒が自由に選んでいた。平成24年度から選択の授業そのものがなくなるので、移行期間は学校選択とした。選択教科の設定については、授業時間数が増となる教科を中心とした。 ・授業中の姿勢が極端に悪い生徒が目についた。各学年で指導していただきたい。全体計画の中にも活用の重視と出ているが、授業改善はどういうところを意識しているのか また、家庭との連携の具体は？ →考えさせる授業を意識している。各学年で言語活動を重視し、道徳的指導を全教育活動で取り入れている。特に、言語活動については各教科で悩みながら取り組んでいる。 →評価と言語活動の充実を具体的に取り組むよう一人ひとりの先生にお願いしている。 考えさせる授業については、50分の授業で5分でもいいから質問をなげかけて、考えさせて、ノートにまとめたり、発表させたりすることで言語活動の充実にもつながる。授業を見る際には、略案を出してもらっている。 →PTAとの連携については、校長として委員会等で呼びかけ、お願いをしていく。また、PTA主催の地域フォーラムで地域に投げかけていく。 ・重点は授業で実施されるべき。知識の習得・活用・探求の授業が同じでは変化しないことになる。授業レベルで実現できるようにしてもらいたい。明らかに変わってきたという手応えが重要。家庭学習も、家庭や地域との連携も大切だが、生徒自身にもより一層直接伝えてもらいたい。 →1年生が入学した際に、小学校の算数の基礎問題を実施したが、例年に比べて結果が悪かった。姿勢の悪さを指導するのに要する時間と基礎を復習する時間。考えさせる授業をしたい部分と現実的に必要な指導の多い部分との関係がある。 →各個人に任せられている部分を全員で共有すべき。 ・100%の子供の定着は難しい。意識してやるだけで授業は変わってくると思う。個人のレベルで行うのではなく、全体として意識して取り組んでもらいたい。 ・イスと机の高さがあっていないことも姿勢の悪さにつながる。交換してあげたくても予備がない状態。 →今回国の緊急経済対策の関係で各校から希望を聞いて補正の要望を出す予定。 ・授業改善等、教師が先を急いでばかりいると子どもは育ちにくい。時にはある程度時間をかけることも必要。 	

訪問学校・園名	国府保育園	
日 時	平成21年8月19日(水) 13:00～15:00	
日 程	開会・あいさつ	13:00
	保育参観	13:00～13:30
	懇談会	13:45～15:00
	閉会	15:00
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	園長、各担当職員	
懇談会の主な内容	<p><開会挨拶></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園と同様、就学前の教育を行うということで、教育委員会として何かお手伝いがないかと以前から考えていた。保育者の皆さんからいろいろご意見を伺いたい。 <p><園長挨拶></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月より新保育所保育指針に則り、新しい指導計画を作成し、保育者一人ひとりが資質の向上を目指して取り組んでいる。友だちに対して、思いやり・優しい気持ちを持てる子どもに育てたい。子ども一人ひとりのよいところを伸ばしていけるように援助していきたい。就学に向けて、年齢に応じた教育も考えたい。職員間のコミュニケーションやチームワークを大切にしたい。いろいろご指導いただきたい。 <p>【園から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長になると、子どもたちは自分でやってみたいという気持ちが出てくるので、当番活動や小さい子の面倒を見ることなどを取り入れている。入学に向けて、自信を持ってできるように育てたい。 ・集団における約束も教えている。 ・自分でできるようになったことを褒めてもらって自信を持つ時期。また、周りの友達が存在が視野に入る時期でもあり、友だちに言葉で伝えるようになってきた。言葉を使った遊びを取り入れたり、お話を読んだりして、言葉への興味を高めている。抱っこやおんぶをして、甘えさせることも大切にしている。 ・担任が1日中対応できないので、保護者から質問があったときに誰でも答えられるように気をつけている。 ・保護者といっしょに子どもを育てていくことの大切さを痛感している。 ・成長の差が大きいので、一人ひとりに合わせて対応している。遊びながら学ぶ時期。褒めてあげるとすごく喜ぶ。しっかり遊んで食べるという生活が送れるように努めている。 ・年長・年中児の真似をして一生懸命に遊んでいる。 ・やきもちをやくというような心の成長が見られる。日々の子どもの成長を感じる心を大切にしたい。 <p>【懇談(意見交換)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延長保育を受ける子どもは何人くらいいるのか？→6時から、10人くらいいる。 ・保育士のローテーションを組むのはスムーズにいくのか？→正規職員同士で交替したりして調整しているが、昨年より正規職員が減ったので大変になっている。 ・子どもの体調が悪くなったときはどう対応しているのか？→親に連絡する。原則として、38℃の発熱があるときは迎えに来てもらう。 ・保護者の価値観が多様化しているが、保護者対応で困ることはあるか？ <p>→紙おむつや紙パンツをそんなに換えないでほしいというクレームがあった。トイレトレーニングに協力してくれない。子どもがいけないことをしても注意しない。子どもが泣くとすぐに何かを与えてしまう。我慢したことを褒める親が少ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の中で一般的なことを園だより等で保護者にお知らせして、保護者の不安を解消することも必要だ。地道な努力が子育て支援の一つになる。 ・幼・保・小の連携を進めてほしい。卒園した子どもの成長を授業参観等で見てほしい。 ・働きやすい職場作りにこれからも努めていただき、先生方には心身ともに明るく子どもたちに接していただきたい。 <p><閉会挨拶></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者対応も大変だと思うが、子どもの健全な成長のためによりしくお願いしたい。長い目で子どもの成長を見ていただきたい。 	

訪問学校・園名	国府小学校	
日 時	平成21年9月30日(水) 14:00～16:50	
日 程	開会	14:00
	授業参観	14:05～14:50
	質疑応答	15:05～15:35
	懇談会	15:45～16:50
	閉会	16:50
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	国府小学校全教職員	
懇談会の主な内容	<p><開会挨拶> ・子どもたちがより良い大人になるための準備を小学校でできるようにしてほしい。</p> <p><学校長挨拶> ・試行錯誤の取り組みをしている。 ・課題は山積しているが教職員全員で誠実に取り組んでいるつもりである。</p> <p>【学校から】 <1学年主任><2学年主任><3学年主任><4学年主任><5学年主任> <6学年主任><なかよし級担当>から ・生活や学習のルールを身につけさせている。 ・学年全体でルールを守るように指導している。 ・他者への思いやりを大切にしている。 ・学年内でルールの統一を図っている。</p> <p><ことばの教室担当><養護教諭><給食担当><事務担当> ・保護者との連携を大切にしていきたい。 ・3つのことに留意している。 ①子どもとの関係作りを最優先に。②指導記録の継続。③親心。 ・安全に行動することを徹底したい。 ・教育予算の増額をお願いしたい。</p> <p>【懇談】 ・予算についてはとても厳しい状況である。毎年要求は出しているが、うまくいかない。次年度へ向けて事務局にがんばってもらおう。 ・ことばの教室については、実際に見ることができなかったが、担当の先生の苦労話を聞いて、担当者数に対して通室する子どもが多いと感じた。学習する上で不利となる部分を助けるという意味ではとても重要だと思う。より専門性を高めて実践していただきたい。ことばの教室のモデル教室に育ててもらいたい。 ・子ども達が元気で頼もしかった。 ・集中して授業に向かっている姿が多く見られた。先生方の指導の賜と思う。 ・今日授業を見るまで心配なこともあったが、実際に見てみたら授業がしっかりしていて子ども達も落ち着いていたので少し安心した。 ・学年全体で協力し力をあわせていくことが大切。心で子どもを育てると子どもも心を開いてくれる。 ・授業を見て気になる子どもが何人かいた。その多くに共通することは、上履きのかかとを踏んでいる、名札がついていない、姿勢が極端に悪い、ということである。 ・学習に必要な「3構え」 ①もの構え(学習に必要なものがそろっているか) ②身構え(学習する姿勢となっているか) ③心構え(学習に望む準備ができているか、学習する気があるか) ・教育とは時間のかかる営みである。当たり前のことをバカにしないでしっかりとできるように。凡事徹底! ・子ども達の学習に必要な「3構え」は裏を返すと、同時に先生方の「3構え」でもある。 ①教材準備、②立ち位置、③授業に対する熱心さ、となる。</p> <p><閉会挨拶> ・自分の仕事は職人である。プリントや教科書はない。自分で創意工夫するしかない。一方方向でものを見ていては何も新しいものは生まれてこない。多方向から見ていくことが必要となる。子どもも同様にいろいろな視点から見ていただきたい。</p>	

訪問学校・園名	国府小・中学校生沢分校	
日 時	平成21年10月21日(水) 13:10～16:00	
日 程	開会あいさつ	13:10～13:20
	授業参観	13:20～14:05
	懇談会	14:30～16:00
	閉会	16:00
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	国府小・中学校生沢分校全教職員	
懇談会の主な内容	<p><開会挨拶> <学校長挨拶> 【学校から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中2落ち着きなく、午前中は授業離脱が多かった。 ・学習障害のある子どもが増加している。 ・中2では1クラス7名で、担任1名では贅沢な話かもしれないが厳しい状況。 ・学力のつまずきの原因・背景を探る必要がある。 ・子どもの近くに寄り添ってコミュニケーションの中から改善・アプローチのヒントを探ることが大切。 <p>【懇談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月入所が多いと思っていたが、7月入所が今年は多く、入所から日が浅いことも落ち着きがないことの原因でもあるかもしれないが、徐々に落ち着いてくるのでは？ →トラブル発生後の子どもたちの状況をよく吟味することで、子ども達の関係が見えてくる。子どもが「大人不信」という意識を変えることが一番大切。子どもが退所するためにはどうするべきかに気づくことが必要。また、本人が変わるためには周囲の大人のかかわりがポイントとなる。 ・廊下に掲示されている「分校だより」は子どもまたは先生が作成したのか？ →養護教諭が作成している。子どもは意外と読んでくれているようだ。 ・心の質が上がるとIQがあがることがある。思いやりの心が育つことがIQアップにつながることもある。 ・校外の行事等に積極的に参加しているようだが、参加することに対する子ども達の意欲はどうか？ →内容による。運動が好きな子が多い。 ・入所理由状況の「施設不適応」の施設とはどういうものか？→養護施設のこと。 ・「戦国時代」、「天王山」という表現で説明があったが、子どもとのかかわり方において先生の経験からくる感覚的な子どもの状態の把握の仕方は？また、感覚的なつかみ方はほかの先生と共有あるいは伝えることができるものなのか？ →意見交換はよくしている。自分の感覚を研ぎ澄ます中で、うまくいかなかったらほかの先生の捉え方を取り入れたり意見交換したりすることで感覚的なものを客観的なものにしていく努力をしている。 ・分校の先生は何年かすると別の学校に異動するわけだが、感覚的なものは新しく着任した先生に紙に書いて引き継ぐことは難しい内容である。有形無形の財産を伝えることはできないのか。また、この職場の先生方の共有財産とできないか。その方法を模索できないか。 →分校が特殊とは思っていないが、分校独特の指導技術を自分なりに体得していかなければならないと思っている。小学校教員は2人しかいない分、小学校に関しては意見交換等が深くできていると思う。今年度は1名のみの異動だったが、次年度多く異動があったらどうなるかという危機感はある。経験的なものを受け継ぐこと、人的な充足が必要と感ずることもある。 ・伝えることばかりに気をとらわれてしまわず、参加者がどう感じ取ったかということを書く姿勢を忘れずに。 ・授業が始まってから終わるまでザーツという感じがした。今も耳にその感覚が残っている。今日の授業が「動」とすると「静」の授業もある。メリハリのある授業を目指すことも必要。テーブルマナー等で「静」を子どもはできることが実証されている。 ・もっとすごい状況と思っていたが、静かにノートをとる生徒もいた。気を長くして取り組んでほしい。 ・小学校の授業では、入室者にお茶を出してくれた。御苦労が多いと思うが、自己管理をして自分を大切にしてほしい。 	

訪問学校・園名	大磯小学校	
日 時	平成21年11月18日(水) 12:20～16:50	
日 程	給食試食	12:20～13:00
	開会・あいさつ	13:05～13:35
	授業参観1(お昼のモジュール)	13:40～13:55
	授業参観2(5校時)	14:00～14:45
	概要説明	15:10～15:30
	懇談会	15:40～16:50
	閉会	16:50
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	大磯小学校全教職員	
懇談会の主な内容	<p><開会挨拶> <学校長挨拶> 【学校から】 <1学年主任><2学年主任><3学年主任><4学年主任> ・大変な子どもが多いが、30人でとても助かっている ・昨年は40人クラスだったので、32人になって学習しやすくなった。 ・総合的な学習の時間(福祉)でおもいやりいっぱいというテーマでおもちゃを作り、幼稚園保育園へ届ける予定。 ・教材教具が古くなってきたので改善されるといい。 <5学年主任><6学年主任><特別支援学級担当> ・子どもと授業以外で向き合う時間が少なくなった。 ・158名4クラス。人数が多く、体格もいいので教室が狭く感じる。 ・学習室に扇風機を付けていただくよう要望している。 <教育相談コーディネーター><安全担当><教科指導担当> ・取り出し等ケースに応じた対応→教職員の共通理解・相互理解を図る。 ・避難所開設の準備を進めている。町との連携が必要。 ・新学習指導要領の実施へ向けて年間計画、教材教具等の準備を進めている。 <事務担当> ・学習内容増える一方⇔予算減る一方、児童数増加傾向。経常経費の確保が困難。 【懇談】 ・モジュール授業はとても新鮮だった。大磯は1年生から英語に親しもうという取り組みをしていることはいいことだと思う。一方で、時間の確保等苦勞があるのでは？15分という短い時間だが密度の濃い内容だった。ぜひ実りあるものにしてもらいたい。 →季節による時間設定の変更はない。モジュールがある日でも簡単清掃とし、下校時間は5分しかずれない。朝の15分は健康観察等で確保しづらいが、昼にすることで確保できている。 ・朝は時間を確保しづらいので昼にやることはいいアイデアだと思う。 ・日本人は外国へ行った時に自分で話ができないと言われている(実際自分もそうだった)小学校から英語に親しむことで英語を聞く力を育てることは重要。 ・幼稚園と交流することは、小学校に入学してからの不安を軽減することにもつながるのでとてもよい取組。顔なじみがいることで安心できる。研究だけでなく、学校行事に定着すると良い。 ・5、6年からクラス人数のことが出されたが、何人くらいだったらいいのか？ →30人くらいだと助かる。1年生で35人以下学級を実施していただいているが、他の学年でも取り入れていただきたい。 ・防災についてあったが、町全体として進めるべき。学校内のことはある程度進めていただきたい。 ・教員は授業が勝負。子どもとのかかわりの中で授業を作り上げていってほしい。 ・クラスが理想の人数で授業を行えるのが先生方にとってベストだと思う。実現に向けて努力していきたい。 ・備品老朽化は気になっている。予算に係る話も多くいただいた。教育予算だけでも何とか確保したいと思っている。</p>	

訪問学校・園名	大磯中学校	
日 時	平成22年1月20日(水) 13:10～16:30	
	開会・あいさつ	13:10～13:20
	授業参観1(5校時)	13:25～14:15
	授業参観2(6校時)	14:25～15:15
	懇談会	15:30～16:30
	閉会	16:30
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	校長、教頭、各担当教員	
懇談会の主な内容	<p><開会挨拶> <学校長挨拶> 【学校から】 <学校長> ・「変えられるものは変える。変えられないものは受容れる」 ・未来を切り拓く自立型人間の育成を目指す。「自立と健康」(昭和55年～) <教頭> ・板書、教師の立ち位置等の研究 <教務主任><3学年主任><2学年主任><1学年主任> ・人前で自分の考えを発信しながらない生徒をその気にさせる授業形態等の工夫。 ・自分もまわりも気持ちよく過ごせるよう、ロッカー、机・イス等の整理整頓。 ・修学旅行へ向けての準備・活動。 ・心豊かで積極的に取組める生徒を目標。 <特別支援学級><生徒指導担当><健康担当> ・社会的適応能力は高く、交流授業を多く設定している。 ・ライフチェック(12月実施)・・・いじめまでいかないが、気になる言動(悪口・悪ふざけ等)が多く見られる。 ・インフルエンザ流行。生徒は手洗い・うがい等よくやっていた。薬用石鹸購入、アルコール消毒(放課後実施)。1・2年生学年閉鎖。 <養護教諭><情報担当><会計担当> ・インフルエンザ罹患者例年30人程度だが、今年は173人。 ・情報セキュリティとして指紋認証USBを配布。活用度低い。個人PC持込。 ・夜間開放等で使用する部分は町で対応してもらいたい。 【懇談】 ・予算関係については身につまされる思い。 ・健全な授業を行うために前向きに対応していきたい。 ・廊下が汚いとすごく気になるが、大磯中はきれいで気持ちがいい。 ・ワックス等予算については事務局で対応。経常経費については何とかしていきたい。 ・清掃委託ないということは生徒が定期的にワックスをかけている。予算的に元々不足しているのか？ →毎年全体的にマイナスシーリングとなっているため、減額されている。 ・体育館照明は1万8000時間もつはずが、既に3本切れてしまった。 ・町としても町有施設の使用料について検討している。夜間照明代を徴収する方向。教育委員会関係の施設全体として予算削減を迫られている。一方、工事関係は実施せざるを得ない。今年度教育費全体で昨年度比約57%の伸びだが、次年度は建設的なものがない分45%減となる予定。修繕費等何かあれば事務局宛て連絡してもらいたい。 ・心の教室相談員の待遇を検討してもらいたい。生徒により近い存在として様々対応していてとても重要。 ・スクールアドバイザー等年々時間数減となっているが、何とか有効活用する方策を検討していきたい。 ・次年度予算の中で、中学校の校務用PCは復活で予算措置したので配備する予定。東側フェンス、デジタル放送対応テレビ(普通教室)を導入予定。 ・子ども達が落ち着いて学校生活を送っていると感じた。 ・様々な意見を持ち帰り努力したい。</p>	

訪問学校・園名	月京幼稚園	
日 時	平成22年2月17日(水) 13:15～15:20	
日 程	開会	13:15
	保育参観	13:20～14:00
	職員との懇談	14:20～15:20
	閉会	15:20
訪問者	教育委員4名、教育長、教育委員会事務局職員	
学校・園懇談会参加者	月京幼稚園職員全員、教育支援員	
懇談会の主な内容	<p><開会挨拶></p> <ul style="list-style-type: none"> ・月京幼稚園としての委員会訪問は最後になるので、感慨深いものがある。新しいたかとり幼稚園を子どもたちと一緒に作ってほしい。 <p><園長挨拶></p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児の様子や園の実情を理解していただきたいので、担任の話をじっくり聞いていただきたい。 <p>【園から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気はつらつで、自己を発揮している。3学期に入って、入学に向けての不安や期待が見受けられるようになった。いろいろな経験を積み重ね、自信をつけられるようにサポートしていきたい。 ・自分の目標を持って、前向きに一生懸命取り組む子が多い。なかよしタイムという3学年合同で活動する時間も設けている。就学に向けて、小学校の日課を意識した保育を心がけている。 ・担任の投げかけに対して反応がよい。話を聞く練習をしている。年少から上がった子と年中から入った子では、それぞれ異なる不安をもっている。一人ひとりを大事に見ていく必要がある。 ・年長になるという意識付けをしている。想像力を働かせて製作活動に取り組ませている。みんなで活動する時間と個人で頑張る時間を作っている。 ・職員で悩みを共有できる雰囲気がある。また、巡回相談があるので、とても参考になる。特別に支援を必要とする子どもがいるが、クラスみんなが共に成長し合っている。 ・支援員を配置してもらえたので、一人ひとりに配慮した保育ができる。 ・巡回相談を実施していただき、成果が見られた。日頃から職員の心のケアに努めている。職員のチームワークの良さで前向きに何事も取り組めた。 ・職員が力を発揮している。巡回相談でもらったアドバイスは、次の日に即実践していた。特別に支援を必要とする子どもが多いので、職員に積極的に研修に参加してもらった。 <p>【懇談】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に配慮の必要な子どもがいるクラスといないクラスとでは違いがあるのか。→共に育つということが見られた。自然体でお互いに成長した姿が見られた。 ・小学1年生の担任をしたことがあり、自閉症傾向の児童を受け持ったことがある。周りの子はその子とどのくらいの距離を置いて関わるかで、その子から学ぶことが異なる。薄いつながりを濃いつながりへと変化させることが重要だ。教師が子どもを褒めたり、支えたりすることでクラスのみんなが共に育つ。 ・職員の情報の共有化ができていて聞いて、ほっとしている。たかとり幼稚園にもこの明るい雰囲気を持ち込んでほしい。 ・一人の子を多くの先生目で見て、指導することが大切だ。 ・先生方一人ひとりが工夫をされ、子どもを指導していることが分かった。幼稚園は学校教育のスタートラインと言った母親がいたが、その期待に応えていただきたい。 ・年齢にかかわらず、園の子どもたちは積極的に自分を表現している。子どもたちにとって幼稚園の先生は忘れられない存在だと思う。子どもたちのために、これからもよろしくお願ひしたい。 	

②行事等

行事名	月 日(曜)	対象園・学校
運動会・体育祭	5月23日(土)	国府中学校
	5月31日(日)	大磯中学校
	9月18日(金)	国府小・中学校生沢分校
	9月19日(土)	国府保育園運動会
	9月27日(日)	小磯・月京幼稚園
	10月3日(土)	大磯・国府幼稚園
	10月10日(土)	大磯・国府小学校
文化祭・保育発表会等	10月24日(土)	大磯中学校文化祭
	10月29日(木)・30日(金)	国府中学校文化祭
	11月23日(月)	おおいそ学園(生沢分校)収穫祭
	12月5日(土)	国府保育園お楽しみ会
	12月10日(木)	小磯幼稚園保育発表会
	12月17日(木)	大磯・月京幼稚園保育発表会
	12月22日(火)	国府幼稚園保育発表会
卒業式証書授与式 ・修了証書授与式	3月12日(金)	大磯・国府中学校
	3月15日(月)	国府小・中学校生沢分校
	3月18日(木)	小磯・国府幼稚園(AM)
		大磯・月京幼稚園(PM)
	3月19日(金)	大磯・国府小学校
生涯学習	10月24(土)・25日(日)	第56回おおいそ文化祭
	11月4日(水)	人権教育講演会
	12月13日(日)	第8回大磯図書館まつり
	1月11日(月)	成人式
その他行事等	8月25日(火)	大磯・二宮町教育研究所教育講演会
	1月9日(土)	小・中学校音楽会
	11月14日(土)・15日(日)	子ども作品展
	1月30日(土)	英文朗読大会
参加体制	教育委員・事務局職員	

(5)その他の活動

①関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会及び研修会

日時	平成21年5月22日(金) 13:00～15:35
場所	群馬県桐生市市民文化会館 シルクホール
参加体制	教育委員長、教育委員長職務代理者、事務局随行
内容	13:00～13:25 開会式 13:30～14:00 総会 20年度事業報告・決算報告 21年度事業計画・予算(案) 会長・副会長及び監事・理事の選出等 14:10～15:20 研修会 記念講演「日本語は楽しい」 講師:落語家・作家 立川談四楼 師匠 15:25～15:35 閉会式

②神奈川県市町村教育委員会連合会研修会

日時	平成21年11月5日(木) 13:30～16:00
場所	神奈川県相模原市立博物館
参加体制	教育委員4名、教育長、事務局随行
内容	13:45～14:00 開会・あいさつ 14:00～15:30 研修会 講演「児童・生徒に係る相談内容の実態」 学校の中のいじめの実態 講師:東京都児童相談センター・児童心理司 山脇 由貴子 氏 15:30～15:45 質疑応答 15:45～16:00 閉会・事務連絡

3 項目別点検・評価（内部評価）

(1)教育委員会議

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】			
「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」及び「大磯町教育委員会規則」に則り、大磯町の教育行政が円滑に運営されるために必要な事項を協議する。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
教育委員会議が、法令等に沿って、適切に実施されたか	A	法令に則り、年度始めに計画された定例会議は滞りなく開催され、臨時会も必要に応じて開催された。	
教育委員会議が、適正な意思決定機関になっているか	B	付議事項（38件）は慎重に審議され、特に重要な案件は時間をかけ活発な議論を重ねてきたことなどからも、教育委員会として意思決定ができたと考えられる。 一方で、予算関係等議会案件に関する審議については、財政難というくくりの中で不本意な決定をせざるを得ないケースもあった。	明確な「教育ビジョン」を打ち出し、予算額との整合性を図る。 また、条例改正等の案件については、事前に議会への説明会等を行う。 今後、さらに適正な意思決定をするために、事前の資料確認や勉強会を増やすとともに、適宜、臨時会を開催していく。
教育委員会議が、教育行政における今日的な課題に対応しているか	B	子育て支援の課題や各学校等の訪問で挙げてきた課題に対しバランスよく対応し、次年度の教育方針や予算要求に生かされたものも多くあった。 一方で、今日的な課題には予算が伴うものが多く、緊急性、重要性等の順序付けをせざるを得なかった。また、学校が抱えている細かな課題への対応が不十分であった。	教育予算の確保には、事務局と一体となり、町長との懇談も含め、町部局に対し、その重要性・必要性の理解を得ていく。 共通した課題の解決に向け、他市町村教育委員会との交流や意見交換会の実施を検討する。 学校訪問に限らず、学校が抱えている課題を教育委員会として把握する機会を増やしていく。
教育委員会議が、地域住民にとって身近なものとなっているか	C	今年度は意識的に地域住民、保護者との対話を行った。また、幼稚園の統廃合の問題や身近な話題では傍聴者も多く、関心の高さが伺えたが、全体的に教育委員会の存在は知られているものの職務内容については十分に理解されず、会議への関心も希薄である。	地域住民との対話の頻度をさらに増やし、情報提供と課題の共有化を図る。 教育委員会議をさらに開かれたものにするために、会議についての広報手段を工夫し、開催時間や庁舎以外の場所の検討も行う。
総合評価	B	教育委員会議が、地域住民にとって身近なものになっているか、という点では依然として課題が残るが、前年度の反省も踏まえ、課題に前向きに取り組んだ。教育委員会の職務権限に属する案件について、適切に協議し円滑に運営できたことから、概ね、目的に沿って実施できたと考えられる。	

(2)事務連絡調整会議

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】			
教育委員会議を円滑に運営するため、事前の勉強会や次回定例会議事の内容確認等を行う。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
必要に応じて、適宜、開催されたか	A	年間17回の開催は、年度当初のインフルエンザ対策から教科書採択関係、教育予算要求に関すること、また、幼稚園、保育園、学校教育、生涯学習、子育て支援等々、それぞれの内容について適宜実施され、十分理解を深めることができた。	
勉強会等を通じて、今日的な課題や必要な情報が十分得られたか	A	要求した資料、特に、重要な案件については、事務局の努力で満足なものが得られた。特に、教育委員会各課、園・学校の課題や成果も把握でき、勉強会で得られた情報をもとに会議に臨むことができた。	

<p>次回の議案、テーマに関して十分な理解がなされたか</p>	<p>B</p>	<p>事前に資料配布があり、事務局からの詳細な説明もあり、個々のケースについては概ね理解がなされた。 しかし、1回あたりの時間が足りないケースや定例会当日まで資料が配布されない場合もあり、事前の理解が不十分のときもあった。</p>	<p>午前中の事務連絡調整会議で理解が不十分である場合や内容が盛りだくさんの場合、適宜、時間を調整したり別日程で再開する。 また、事前に配布された資料と過去の資料を見比べたり、関連ホームページ等から知識を得るなど、教育委員自身が事前学習をするように心がける。</p>
<p>総合評価</p>	<p>B</p>	<p>事務連絡調整会議での案件の量や時間不足が今後の課題として残っているが、この会議を通じて、様々な案件が整理され、教育委員一人ひとりの理解も深められたことから、概ね、目的に沿って実施できたと考えられる。</p>	

(3)意見交換会・懇談会

満足 **A** 概ね満足 **B** 努力が必要 **C**

【目的】			
<p>保護者や地域の方々と直接対話することにより、子どもを取り巻く様々な課題を共有し、今後の教育行政に反映させる。</p>			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
<p>適切な時期に必要な回数実施されたか</p>	<p>B</p>	<p>大磯町立学校PTA連絡協議会役員との懇談会は時期及び回数とも適切であった。また、中学校地域フォーラムやふれあいの集い等にも参加する機会ができ、相互の理解を深める場となった。 ただ、地域の方々と懇談会は早い時期に実施し意見交換を行いたかった。</p>	<p>地域の方々と懇談会で時期や回数を明確に定めるには、教育委員会が主催して行うことも検討する。</p>
<p>参加した懇談会等で必要な課題が適切に話し合われたか</p>	<p>B</p>	<p>地域の方々と懇談会はもう少し時間がほしかったが、全体的には、様々なテーマが設定され、タイムリーな話題もあり、出席者がそれぞれの立場で活発に発言していた。 しかし、幼稚園問題では、全町民との対話が十分できなかった。また、個々の課題については、問題点を深く掘り下げることができなかった部分もあった。</p>	<p>「幼稚園の将来構想」は、今後とも町民全体の問題として、機会をつくり対話集会を実施する。 また、対話集会の中では、教育委員会としてのメッセージも発信していくように心がける。 いろいろな機会に、課題やテーマを絞り、希望する保護者や地域住民との意見交換会の実施も検討する。</p>
<p>懇談会等を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか</p>	<p>B</p>	<p>いろいろな角度からの意見が出され、可能な限り次年度事業に反映することができた。 しかし、懇談会等で出された要望等が多岐に渡っていることや町単位で解決できないもの、また、予算が絡む案件については充分に対応できなかった。</p>	<p>互いに顔を合わせることの大切さや相互理解の場としての位置づけであったが、今後は、どのように教育行政に生かしていくのか、特に、予算面での反映は、町長との懇談も含め、町部局に対し、その重要性・必要性の理解を得ていく。 また、町単位で解決できない案件については、町部局を通じ、国や県にも要望していく。</p>
<p>総合評価</p>	<p>B</p>	<p>子どもを取り巻く様々な課題を共有するという目的は、十分達せられたが、多岐にわたる要望や課題をどのように整理し、今後の教育行政に生かしていくかという点においては、今後とも具体的な方策について検討が必要である。</p>	

(4)訪問(学校・幼稚園・保育園)

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 学校・幼稚園・保育園現場を訪れることにより、現場が抱えている課題を把握し、教職員との懇談を通し、今後の教育行政に反映させる。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
学校・幼稚園・保育園の教職員と教育行政を担う教育委員とが、真摯に問題を共有できたか	B	直接、教職員と教育委員が顔を合わせ対話することにより、教職員の悩みや要望を聞くことができ、ある程度の助言もできたと考えられる。 一方で、教職員に遠慮があるのか、学校で起こっている出来事について、率直に意見が言えない雰囲気も感じた。	訪問回数を増やしたり、話し合いの時間を長く設定するよう園・学校に働きかけ、忌憚のない意見交換ができる雰囲気をつくる。 話し合いの持ち方として、グループ討議形式や管理職を交えず教職員だけの懇談会形式も検討する。
学校・幼稚園・保育園訪問を通して得られた情報やご意見をその後の教育行政に生かすことができたか	B	町にある園・学校数がそれほど多くないため、年間を通じて、ほぼ毎年訪問することができ、タイムリーな情報や意見を聞くことができ、その後の教育施策に生かすことができた。 しかし、教職員の人事配置や予算面での要望には十分な対応ができなかった。	訪問後、園・学校からあげられた要望や問題点を教育委員会で話し合う場を定例会や勉強会とは別に設けることを検討する。
総合評価	B	小さな町であるからこそ、ほぼ毎年訪問できるという利点を生かしていることから、現場が抱えているタイムリーな課題を把握することができたことについては満足できるが、懇談会での意見交換が形式的なもので終わることもあり、本当の意味で課題の把握とその後の教育行政への反映が不十分であった。	

(5)訪問(行事等)

満足 A 概ね満足 B 努力が必要 C

【目的】 学校・幼稚園・保育園行事や教育委員会主催行事への参加をとおして、教職員、園児・児童・生徒及び地域住民と積極的に交流することにより、各学校や地域の取り組みについての認識と理解を深める。			
評価項目	評価	評価の主な根拠	課題に対する改善点等
教育委員が、園児・児童・生徒、保護者、地域住民と有意義な交流、意見交換が持てたか	B	様々な行事には、多くの地域住民が訪れ、そこに参加することにより、良い交流の場となった。 また、子どもたちの課外活動や地域の方々の文化活動を直接見ることができ交流も深まったが、意見交換までには至らなかった。	今後も様々な行事に参加することは継続していく必要がある。また、改めて意見交換というよりも、その場で気軽に様々な方と懇談するように心がける。
各学校・園や地域の取り組みに関して、認識と理解を深めることができたか	A	学校や園が様々な行事において、日常とは異なる取り組みをしていることを再確認することができた。また、学校・園の個性や雰囲気を肌で感じることができ、町民や地域の方々の生活ぶりや想いも実感できた。 また、様々な年齢層の方々と知り合いになれ、意見を聞くことができた。	
総合評価	B	学校・幼稚園・保育園での行事や地域の行事に参加し、それぞれの場所で様々な方と交流できたことには、学校等や地域の取り組みについて認識も深まり、十分満足している。また、意見交換までは至らなかったが、様々な年代の子どもたちや地域の方々と触れ合う機会は得られた。	

4 学識経験者による評価（外部評価）

【外部評価者】

※ 評価者氏名（50音順 敬称略）

氏名	所属等	備考
成田 康昭	立教大学社会学部教授	平成21年度外部評価委員
増井 静江	税理士	平成21年度外部評価委員

【外部評価の概要】

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する上記の方々のご意見をお聞きする機会を設け、次の2点について、外部評価をお願いしました。

- ①内部評価での評価項目や評価そのものが適正・適切であるか(内部評価の妥当性)
- ②内部評価での評価項目や評価そのものが妥当性に欠ける場合や更によりよい評価活動を目指すための指針(指導・助言)

(1)教育委員会議

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>評価項目の設定に関しては、概ね適切である。また、「教育委員会議が、教育行政における今日的な課題に対応しているか」の評価項目で、「学校が抱えている細かな課題への対応が不十分であった」ことや「予算の枠内で優先度をつけざるを得なかった」など客観的に評価し課題に対する改善点を挙げていることは評価できる。</p> <p>しかし、「教育委員会議が、地域住民にとって身近なものとなっているか」に関しては、昨年同様評価がCである。これは、「教育委員会議」を「教育委員会」強いては「教育委員」と置き換えると課題が見つけやすいのではないだろうか。また、「会議」の地域住民にとっての身近さについての評価と、教育委員会の姿勢についての評価とが混在しているとも考えられる。確かに教育委員会議の公開は法律によって義務付けられているところであり、その趣旨は教育委員会議が地域住民に対して開かれているべき点にある。一方、本教育委員会は、地域との様々な対話を熱心に重ねており、その点は「会議」そのものとは別に評価されるべきである。</p> <p>したがって、ここではこの評価項目を、「教育委員会議はその開催にあたって会議の予定、議案を周知し、議事内容を公開したか」と「教育委員会議は、地域住民・学校との交流・懇談の中から得られた課題を議題として適切に対応したか」とに分け、前者は先頭の項目に併せるなどすべきではないだろうか。さらに「(3)意見交換会・懇談会」の項に、「懇談会等により、教育委員会が地</p>	<p>「明確な「教育ビジョン」を打ち出し、予算額との整合性を図る」との改善点の指摘は適切である。厳しい教育予算のもとにおいても、真に必要な度の高い事案に関しては、町長、町部局、町議会の理解を得ることが重要であり、そのためには学校が抱えている問題を含む教育の現状を踏まえた、わかりやすい「教育ビジョン」が不可欠だからである。</p> <p>「会議についての広報手段を工夫し、開催時間や庁舎以外の場所の検討も行う」という改善点は、町のHPでの公開を含め、積極的に対応すべきである。さらに、会議の結果の要約や、意見交換会・懇談会などの活動に関しても、積極的にHP、広報誌を通じて公開していくべきであろう。</p> <p>教育行政は、学校現場の生徒、先生に限らず、保護者や地域住民全体の問題である。教育委員は地域の各界各層の代表として地域の教育要求を集約したり、問題の掘り起こしを進めながら政策の基本方針を決定する立場にある。このことは、机上で教育委員会が意思決定したことを住民へ周知させることではなく、情報提供や情報共有以前に地域の情報を汲み取る仕組みを手当てすることが必須となるのではないかと。地域住民や保護者の不満、要求等を組織化し教育行政へ反映させる段階を公開し透明性を高めれば説明責任が果たせ、住民、町長、議会も納得し、円滑な行政執行が確保されるものと思われる。</p>

<p>域住民にとって身近なものとなっているか」を付け加えることを提案したい。</p> <p>その提案を前提として考えると、本項目の「C」評価は適当ではなく、むしろ、地域住民・保護者との交流の努力から、より高い評価がふさわしいと考える。</p> <p>さらに、点検・評価を「計画→実施→チェック評価→見直し」のサイクルとして機能させるためにも、「前年の課題に対し具体的な改善策が講じられ改善がなされたか」の評価項目が必要だと思われる。</p>	
--	--

(2) 事務連絡調整会議

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>評価項目の設定に関しては妥当である。また、課題は残るものの、事前に資料の提供や勉強会が持たれ、委員の理解の基に教育委員会に臨んでいるとの評価は妥当である。</p> <p>しかし、「勉強会等を通じて、今日的な課題や必要な情報が十分得られたか」の項目に関して「A」評価としているが、事務局の問題点と情報の集約のための努力を可とする立場は理解できるが、内容が多岐にわたり、様々な観点からの検討が必要な案件に関しても同様なことがいえるかは、やや疑問が残る。</p> <p>総合評価「B」は妥当である。</p>	<p>時間不足の案件や定例会当日での資料配布があるということは、教育委員会の形骸化、空洞化に繋がるものと留意すべきである。また、開催記録を見ると、事務連絡調整会議は教育委員会議と同日に行われている。この形では、「事前の勉強会や次回定例会議事の内容確認」というこの会議の目的が十分に果たせないことがあることは容易に想像できる。また、教育委員会議の議案の事前公開という点でも問題がある。</p> <p>教育委員会議を実のあるものにするためにも、事務局との連携で、資料等の情報提供は定例会の1週間前には必ず実行等の改善策を講ずるか、「改善点」として指摘されている「別日程」をむしろ、原則とするべきではないか。</p>

(3) 意見交換会・懇談会

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>意見交換会は平成20年度では年2回、PTA連絡協議会との間で持たれたのみであったが、21年度は中学校地域フォーラム、各地域のふれあいの集いへの参加を加えて、7回と大幅に増え、子どもを取り巻く様々な課題を共有するという目的が達せられたことの意義は大きい。ただ、地域ふれあいの集いへの参加に関しては、活動状況報告をみる限り、未だ十分な意見のやりとりには至っていないようである。その意味で、懇談会の持ち方に関して、開催時期や対話時間、問題点の深掘りや多様な要望の整理に課題があるとしているところや改善点が挙げられている点は評価できる。</p> <p>また、懇談会を教育委員会が主催して行うことも検討</p>	<p>「多岐にわたる要望や課題」があるというのは、ある意味当然であり、その多様な民意を市民感覚によるバランス調整をするチェック機関として教育委員会の存在意義があると思う。そういう意味では、「多岐にわたる要望や課題」の整理が重要であるという総括は適切である。</p> <p>また、その整理の際に、「要望」に対して教育委員会が施策によって応えていくべき問題と、国や県レベルでの要望に結びつけるべき問題、さらには問題の共有を出発点として地域の中での協働によって解決していくべき問題という3者を峻別することが重要である。その整理に対応して、頻度や機会を設定する形で行え</p>

<p>するとのことを、大いに歓迎する。教育委員会が地域の問題に対する鋭い感応力を失わないためにも主体的に地域の声を汲み取っていただきたい。</p> <p>教育委員会としてのメッセージの発信、今後の教育行政への反映といった課題のとらえ方は適切であり、「B」の総合評価は妥当である。</p>	<p>ば、課題が具体的な解決に向けた取組となっていくと考えられる。</p>
---	---------------------------------------

(4) 訪問(学校・幼稚園・保育園)

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>小規模自治体であることの利点として、幼稚園、各学校、さらに 21 年度には保育園を加えて毎年訪問できていることの意義は大きい。訪問の記録からも突っ込んだ話し合いが行われたことがうかがえる。</p> <p>一方、さらに率直な意見が言える雰囲気が必要であるとの認識や、要望に対する教育委員会として検討を加え、教育行政に生かしていく必要性などの課題の把握も適切である。その意味で、改善点として挙げられているグループ討議形式や、管理職を交えない懇談などの諸点は重要である。また、懇談結果を背景として、教育委員会としての行政検討機能の強化という視点もきわめて適切であり、形式的な訪問評価より何のための訪問であるかを意識しての評価は妥当である。</p>	<p>教育行政の集大成はやはり現場である学校にある。現場の真の問題把握がなされなければ、課題も見えず改善へは繋がらない。そういう意味では、訪問を極力、形式にこだわらない問題共有のための機会として実質化していく努力が、引き続き求められる。</p> <p>国府保育園への訪問記録にも記されている点であるが、保・幼・小の連携は重要であろう。これらの連携が進むためには、生活・学習・社会性などに渡る連携のための議題を適切に設定することを含め、教育委員会が役割をとることが重要である。また、小・中学校間の連携に関しても、その必要性と方法などについて、慎重に検討していくことが求められる。これらは、小規模自治体であるからこそ、きめ細かく実施することが可能な点であろうと思われる。教育委員会が問題を解決できる機能を持てば、現場から要望等必ず出てくるはずである。</p>

(5) 訪問(行事等)

内部評価の妥当性について	指導・助言
<p>学校、地域の様々な行事に参加し、交流をされていることを評価している点は妥当である。また、「交流・意見交換」と「認識・理解」の二点に関する評価項目は、現状の実施状況からすると妥当であるといえる。この項目の目的は「交流」により「認識と理解」を深めるといふ、「現状視察」的などところに置かれているからである。その立場も理解できるが、もし積極的に「意見交換する」ことを目標に含めるとすれば、「目的」の書き方を含め、改める必要がある。</p>	<p>年間 26 もの行事に参加しており、その努力は評価できる。ただ、「改善点」でも述べられているように、その機会を気軽に意見を交換する場として利用できていない点は残念である。例えば、行事に参加した際、必ず「意見交換メモ」のようなものを、報告書に盛り込むようにし、行事の流れや趣旨に添う形で、教育委員会活動に資する意見を得るようにすべきであろう。</p> <p>町民との連携、開かれた教育行政の推進の観点からも訪問（行事等）は学校以外唯一の住民との交流の場となっている。地域住民の声に敏感に積極的に対応し、ダイナミックに教育行政を進めていただきたい。</p>

Ⅱ 「平成21年度教育委員会基本方針」についての点検・評価

1 義務教育

《基本方針》

現行学習指導要領の「生きる力」の理念や「大磯町第四次総合計画」の「心豊かな人を育てるまちづくり」の趣旨を踏まえる中で、新学習指導要領への移行を考慮し、確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成そして信頼される学校づくりの実現を通して、自己の生き方を見つめ、新しい時代を自ら切り拓くことのできる人づくりを目指します。

《目標》

1. 各学校では、創意工夫と新学習指導要領への移行を考慮した教育課程を編成し、特色ある学校づくりに努めるとともに、人間として心豊かでたくましい児童・生徒の育成を目指します。
2. 保護者や地域の方々と諸問題を共有しつつ協力体制を築き、これからの時代の要請に見合う大磯町にふさわしい教育活動の展開を図ります。
3. 「教職員としての使命の自覚」「教職員としての力量」を高めるために、教育研究所機能も活用し、研修・研究の機会や場を拡充します。さらに、校種間連携、他市町との広域的な人事交流も推進します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 小、中学校の連携
- ② 児童・生徒支援体制の充実
- ③ 学校 ICT 整備事業の推進
- ④ 国府中学校校舎耐震改修

(2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
<p>①小、中学校の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に第1回小・中連携研究委員会を開催し、2年目の取り組みについて協議を行いました。 ・開校記念日等を利用し、小・中学校それぞれの職員が授業を公開し、お互いに参観しました。 ・夏季休業中に中学校教員による出前授業（算数）を小学生対象に行いました。 ・11月より、国府小学校6年生において、国語、社会、算数、理科のそれぞれの教科について、教科担任制を実施しました。 ・「小中連携を意識した外国語活動」の実践を行っている伊勢原市立緑台小学校に視察及び南足柄市の研究 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○小・中学校教職員それぞれの職員が授業を公開し、お互いに参観したことは、それぞれの特性や授業内容を知る機会となりました。 ○教員同士の授業参観については、特に小学校教員にとっては、6年生を卒業し中学生になった子どもの変化を知るよい機会となり、その後の情報交換にも役立てることができました。 ○中1ギャップの解消という視点では、教科担任制の導入、小学校6年生の中学校生活（行事・授業・部活動）の見学、中学教師による出前授業等、様々な実践があり、児童・保護者からも概ね満足する

<p>発表大会「幼・小・中一貫教育の実践」に参加しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国府小学校児童が国府中学校の文化祭を見学に行きました。また、その後、6年生は中学校生活を知るために、授業と部活動を見学しました。 ・国府中学校生徒会が国府小学校に出向き、中学校生活についての説明会を開催しました。 ・国府小学校6年生担任と国府中学校教員による情報交換会を開催しました。 	<p>評価が得られています。</p> <ul style="list-style-type: none"> □小・中連携研究のねらいの一つに「小学校での外国語活動のあり方」がありますが、先進市・学校の視察以外に具体的な研究がなされませんでした。次年度は、中学校英語教員の出前授業や電子黒板を使った外国語活動の実践等、中学校の英語教育につなげる実践を行います。 □中学校入学時点での学力格差をみると、小学校時から学習の遅れのある児童については、中学校側に早めにその情報を伝達し、中学校での指導法等についても、個々のケースに応じた早めの対策を講ずる必要があります。
<p>②児童・生徒支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小1プロブレムを解消し、よりきめ細かい指導を行うため、大磯小学校第1学年で35人学級編制を行いました。 ・「スクールカウンセラー」、「心の教室相談員」を中学校に、「スクールアドバイザー（臨床心理士）」、「訪問教育相談員」を教育研究所に継続配置するとともに、小学校には新たに小学校教諭免許を所有した「小学校指導協力員」を配置することで、児童生徒指導体制を充実させ、配慮を要する児童生徒への支援を強化しました。 ・臨床心理士や県立特別支援学校の地域支援担当教員、言語療法士をメンバーとして相談支援チームを組織し、子ども育成課指導主事とともに幼稚園、保育所、小・中学校への巡回相談を実施しました。 ・中1ギャップ解消のため平成20年度末と平成21年度1学期に小中連絡会を開催し、支援の必要な生徒を配慮をもって中学校に迎えられるようにしました。 ・県教育委員会からの委託を受け、幼稚園、保育所と小学校の連携研究を推進しました。 ・保護者の要望に応え、就学前機関から小学校へ支援の継続を図るために支援シートの作成に努めました。 ・支援教育推進のため教育支援員を増員して配置しました。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○35人学級編制を実施した第1学年では、個々の児童に対し目が行き届き、個に応じたきめ細やかな指導が可能になりました。 ○「小学校指導協力員」を配置したことにより、チームティーチングや個別指導に対応しやすくなり、学習面や生活面で児童の自己肯定感を高めることができました。 ○相談支援チームの巡回相談により、学校（園）の校（園）内支援組織を支援する体制の確立ができました。 ○町全体の不登校児童生徒数は、その数が最も多かった平成14年度からの7年間で41名から20名に半減させることができました。また、病欠欠席者等を含めた長期欠席者数も69名から31名に減少しています。 ○異校種間の連携が図られ、連絡会の開催や支援シートの活用により、入学当初から配慮して支援できる例が増えています。 □きめ細かい指導や個に応じた支援を進めるために、人的配置を継続する必要があります。 □園や学校からは、さらに教育支援員を増員してほしいという声が寄せられます。教育委員会としては、適正な人数の確保と配置に努めると共に、本務者としての職務遂行状況、教育支援員との役割分担等、適正に行われているか検証する必要があります。

		<p>□校種間連携を深め、滑らかな接続を実現することで、進学先学校での不適応を軽減させることがさらに期待できます。</p>
<p>③学校 ICT 整備事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国の緊急経済対策及び雇用対策としての大型補正に伴い、文部科学省が打出したスクールニューディール構想に沿って、各学校・幼稚園にデジタルテレビの設置、また、小・中学校に電子黒板の設置を決定し、7月の臨時議会で補正予算として議会承認を得ました。 ・夏季休業中に、電子黒板の機能を理解する目的で、3社のメーカーから小・中学校教職員向けに説明会を実施しました。 ・12月にデジタルテレビ84台の入札を実施し、新たな「財産の取得」についての議会承認を得ました。 ・1月に機種選定委員会のメンバー5名により、東京の私立学校2校、相模原の公立小学校1校に電子黒板を使った授業実践の様子を視察に行きました。 ・2月に電子黒板18台の入札を実施し、新たな「財産の取得」についての議会承認を得ました。 ・3月末に幼・小・中へのデジタルテレビ及び小・中への電子黒板の設置が完了しました。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○平成22年度以降の整備を考えていた中で、今回の国の大型補正を活用することにより、前倒して整備できたことは財政的にも非常に効率がよく、次年度以降の他の教育予算についても反映させることができました。 ○夏季休業中に各学校の教職員に対し、事前に電子黒板の機能について説明を受ける機会を設けたので、導入後の各学校での研修会もスムーズに行うことができました。 ○デジタルテレビの使用については、パソコンと連動させての使用やDVDの視聴など幅広い活用が期待できます。また、電子黒板は今までの授業形態や授業形態等を大きく変えるツールとして、その活用が大いに期待できます。 □今後は、同時に整備した周辺機器等の活用等についての研修も必要となります。 □デジタルテレビ、電子黒板の活用については、今後の活用研修いかに大きく左右されることから、平成22年度の重点課題と捉え、研修計画を十分に練る必要があります。
<p>④国府中学校校舎耐震改修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国府中学校校舎耐震改修工事を行い、鉄骨ブレース1箇所、耐震スリット31箇所の耐震補強工事を実施し、B棟のIs値を0.52から0.83に上げました。 ・外壁改修、屋外防水、トイレ改修、空調工事を実施し、快適な教育環境を提供しました。 ・夏季休業中の工事を予定しておりましたが、夏季休業中にすべての工事工程を修了することが難しく、学校現場、教育委員会、設計会社、施工業者と綿密な工程打合せを行い生徒の安全に配慮してまいりました。 ・環境教育に配慮し、太陽光発電設備を設置いたしました。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○耐震改修工事については、安全で安心な教育環境を提供すると共に、生徒、教員に快適な教育環境を提供することができるようになりました。 ○今年度の国府中学校及び国府幼稚園の耐震工事をもって、全ての学校施設の耐震化が終了しました。 □工期中の天候の不順もあり、当初予定していた工期よりも若干の遅れが生じ、2学期の授業や行事に多少の影響がありました。 □政権交代により、太陽光発電設備の国庫補助金交付決定が1月になり、全国的な太陽光発電設備一斉発注による品不足となったため太陽光発電設備が年度内に完了できませんでしたが、平成22年6月に完了しました。

(3) 教育委員による評価

①小、中学校の連携

<p>評 価</p>	<p>新しい教育課程が実施されるこの時期に、小学校から中学校への接続は、子どもたちにとっても、教師にとっても大変重要である。研究協議会の中では、平成20年度の課題を踏まえ、小学校・中学校がお互いの年間計画に基づき各教科・領域についての意見交換による情報交換を行い、それぞれの教職員の授業公開・参観、中学校教員による小学校への出前授業を実施したことは十分評価できる。</p> <p>また、教員に限らず子ども同士の交流、さらには、先進校の視察など様々な試みを行っていることも評価できる。</p> <p>ただ、交流・連携が一部の教科・領域に止まっていること、また、課題として記載しているように学力格差解消に向けた検討が不十分な点はマイナス評価である。従って、B評価は妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>児童・生徒の連続的な学びと成長を図るといふねらいを達成するためにも、交流・連携を拡充するだけでなく、内容面での充実を図るべきである。例えば、中学校英語教師が小学校の外国語活動で授業を行う場合は、事前に教員同士のコミュニケーションの場を増やし、中学校教員は「小学校外国語活動」の意義や目的、中学校との接続などをしっかりと確認して臨む必要がある。</p> <p>また、小・中連携研究会については、学力格差解消のための対策等を行うため、年度当初に開催するなど開催時期、内容についての改善を検討すべきである。さらに、本施策は、平成22年度が3年目の節目となることから、過去2年の実績を再整理し、成果・課題についての「傾向と対策」を明確化すべきである。</p>

②児童・生徒支援体制の充実

<p>評 価</p>	<p>ティームティーチングや個別指導などきめ細かな指導により、学習をサポートすることの重要性から35人学級を実現し、児童・生徒は自己肯定感を高めることができた。また、中1ギャップ解消のための異校種間連携や児童生徒指導体制の充実を図り各関係機関と連携、さらに、相談員や支援員を配置することにより、不登校児童生徒の出現率の低下が見られたことは評価できる。</p> <p>ただ、7年間で不登校児童生徒数、長期欠席者数が半減したことを効果ありとしているが、平成20年度との比較での成果・課題を明記すべき、また、7年間の変遷の中で評価すべきであり、中1ギャップ解消との関連付けも評価すべきである。</p> <p>また、不登校の減少は、諸施策を行うだけでなく他との有機的な連携が取られた成果であると考えられるから、様々な施策を個別に考えるのではなく、常に大きな目標を念頭に今後とも内容の充実に努めるべきである。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>中1ギャップには中学1年生でいじめや不登校という現象面と、小・中学校間の制度や教職員の指導等のギャップという2つの面がある。この問題を解消するには、「児童生徒へのきめ細かな指導、学年や校種を超えて一貫した指導、家庭や関係機関との連携」の3つが機能することがポイントである。このような観点から支援シ</p>

	<p>ート(例えば、小中連携シート、個別支援シートなど)の充実を図り、小中連携研究会など各活動と連動して取組むことが必要である。</p> <p>また、きめ細かな指導や個に応じた支援のための人的配置は必要であるが財源をどう確保するかという課題では、指摘されているとおり、先ず本務者の営み(職務遂行状況など)を再検証し、その上で適正配置に向けた検討を行うべきである。個に応じたきめ細かな指導を行うために最も核になるのはいうまでもなく担任をはじめとする本務者であることを押さえた上で、適正な数を確保すべきである。</p> <p>今後は、即時の対応が求められることも多くなることが予想されるので、校長がリーダーシップを発揮し、校内の支援体制を明確にするとともに、教師間及び家庭との連絡・連携を密にし、日ごろから即応体制を整えておくことも必要である。</p>
--	--

③学校 ICT 整備事業の推進

評 価	<p>政権交代の影響で難しい局面もあったが、学校 ICT 環境整備事業を活用し、電子黒板等を導入したことにより、わかりやすい授業の実現や子どもたちの情報活用能力の育成を図る環境を整備したことは評価できる。</p> <p>ただ、交付決定後の事務の進め方に課題が残り、機器の設置が年度末ぎりぎりとなり、試験運用が年度内にできなかった点は反省すべきである。従って、B 評価は妥当である。</p>
改善事項等	<p>授業の効率性、わかりやすい授業の実現や子どもの情報活用能力の育成の実現には、教職員がこれらを十分に活用できることが必要である。また、使用頻度や活用方法等が教科によって異なることも考えられ、そのための研修が重要である。課題で指摘されているとおり早期に研修計画を策定、実施することが望ましい。</p> <p>また、人的な面に加え、教職員一人一台のパソコンの配置や校内 LAN の一元化等物理的な環境整備も重要であり、そのための予算確保も必要である。</p>

④国府中学校校舎耐震改修

評 価	<p>万が一の災害に備えての工事が完了し、耐震基準の Is 値\geq0.6 を確保したことは学校が地域の緊急避難所としての役割を担っていることから十分に評価できる。また、併せて、その他の修理箇所も工事を実施し、より良い教育環境が整えられたことも評価できる。</p> <p>ただ、業者の都合や自然現象のためとはいえ、作業が遅れ、2 学期の授業等に影響を与えたことは課題として反省すべきである。</p>
改善事項等	<p>工期内に完了できなかったことについては、施工会議などにおいて進捗状況を把握し適切な指示を出すべきであった。今後も教育委員会所管の工事が想定されるが、再発防止に努めるべきである。</p> <p>また、太陽光発電に対する子どもたちの興味関心を高め、エネルギー問題等環境教育にも積極的に取り組めるよう学校(教職員)への働きかけが重要である。</p>

2 子育て支援

《基本方針》

「安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進」、「家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりの促進」、「多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実」を基本方針とし、子ども達一人ひとりにはもとより、その保護者に対する子育て支援の充実を目指します。

《目標》

1. 幼稚園では、新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域の方々との協力体制を築く中で、心豊かでたくましい園児の育成を目指します。
2. 保育園では、保育所保育指針の趣旨を踏まえ、子どもの年齢と成長に合わせたねらいを定め、適切な保育の実施を行います。
3. 幼稚園と保育園の交流を深め、就学前幼児の育成を見据えた中で、幼保連携を推進します。
4. 子育て支援サービスの充実を図り、身近な場所で子育て支援を受けられるまちを目指します。また、家庭や地域の教育力を高め、子どもたちがいきいきと成長できるまちを目指します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 次世代育成支援地域行動計画策定
- ② 子育て支援総合センター整備
- ③ 幼稚園保育園の連携
- ④ 町立幼稚園の統合及び私立幼稚園の誘致
- ⑤ 月京幼稚園整備

(2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
<p>①次世代育成支援地域行動計画策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現計画を改定し、平成22年度から平成26年度までの後期計画を策定し、その期間の子育て支援施策の方向性を示しました。 ・後期計画の素案づくりに向け、次世代育成支援対策地域協議会を4回開催しました。 ・福祉文教常任委員会での報告、社会福祉委員会での説明会を行うとともに、パブリックコメントを10日間実施し、計画の中に反映させました。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○3月に計画どおり策定できたことにより、平成22年度から平成26年度までの5年間における、新たな子育て支援施策の方向性を示すことができました。 ○事前に実施したアンケート結果から、子ども・子育てで家庭を取り巻く現状を把握し、行動計画等に反映させることができました。 □計画策定開始が遅れたため策定期間が短くなったことにより、次世代育成支援対策地域協議会の開催回数を増やすことができませんでした。またパブリックコメントの募集期間も短かったため

		応募数も少なく幅広く意見を聞くことができませんでした。
<p>②子育て支援総合センター整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月より（仮称）子育て支援総合センターの予定地の整備を行い、10月より仮設工事に入りました。 ・12月より躯体工事、内外装工事、外溝工事、設備工事等を実施し、年度内完成を目指しました。 ・建設に係る調整会議を計17回開催しました。 ・住民説明会を3回開催しました。 ・「大磯町横溝千鶴子記念子育て支援総合センター」の設置に伴う条例が議会で承認されました。 ・3月議会で承認された設置条例に伴う「大磯町横溝千鶴子記念子育て支援総合センター条例施行規則」の制定（4月の教育委員会定例会に付議）に向け、準備を進めました。 ・ファミリーサポートセンターの会員を募集しました。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「つどいの広場」「相談事業」等の子育て支援センター機能を備えた施設の完成により、保護者の交流が図れ、子育てにおける相談支援の拠点ができました。 ○ファミリーサポートセンター開設、また、「子どもの育て方としつけ」「親としての自覚とマナー」等についての講座・教室及び子育て経験者との懇談会等を実施する準備ができ、今後のニーズの高まりが期待できます。 ○西部地区に続き、東部地区における「つどいの広場」設置についても検討を進めてまいります。 □開発許可申請等の許可決定の遅れ等から、当初の予定より1ヵ月遅れて完成が平成22年4月になりました。
<p>③幼稚園保育園の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立私立の幼稚園保育園の交流を図りました。将来的な幼稚園保育園の一元化に向けて研究しました。 ・平成21年度中での月京幼稚園、国府保育園との交流を49回行いました。 ・平成22年4月開園の「たかとり幼稚園」と国府保育園との交流については、距離的に近いこともあり、平成21年度中に、日常的な交流の計画を立てました。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○公立幼・保については機構改革により幼稚園保育園が同じ所管になったこともあり、園長・教頭会で幼保連携を話題にし、園児の交流活動も積極的に行うようになりました。 □幼稚園保育園の一元化に向けての研究は議論が熟成できず成果が上がりませんでした。 □平成22年度については、たかとり幼稚園と国府保育園の交流を具体的に進めていきます。
<p>④町立幼稚園の統合及び私立幼稚園の誘致</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年3月の教育委員会定例会において、改めて、町立幼稚園の将来構想について協議を行った結果、「平成23年3月31日をもって、小磯幼稚園を廃園とし、跡地に私立幼稚園を誘致する」という方向性を打出しました。 ・4月に福祉文教常任委員会において、これまでの経緯と今後の予定について報告をしました。 ・5月より、計7回の作業部会（小磯幼稚園園区の保護者と事務局による会）を実施し、保護者からの具体的な要望・課題について検討しました。 ・作業部会と連動する形で「大磯町立幼稚園統合検討委員会」を計3回開催し、作業部会からの案件の精査、 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○5月から開催した作業部会において、平成23年度から3ヵ年の間に誘致した私立幼稚園に入園を希望する保護者の様々な要望・課題を整理し、検討委員会につなげることができました。 ○検討委員会でまとめた内容を教育委員会や議会に報告し、そこでの意見を検討委員会や作業部会でさらに検討することにより、より具体的な条件整備ができました。 ○私立幼稚園誘致に向け、事前アンケートの実施等により、次年度の私立幼稚園選考委員会の設置に向けての準備ができました。 □平成24年度以降の状況があいまいであることや

<p>私立幼稚園誘致に係る課題等を検討しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月から小磯幼稚園園区保護者・小磯地区・全町民向けの説明会を開催しました。 ・平成23年3月31日をもって、小磯幼稚園を廃園とする条例改正が議会で否決され、1年先送りの案である平成24年3月31日をもって、小磯幼稚園を廃園とする条例改正が3月議会で承認され、私立幼稚園誘致のための方向性が示されました。 		<p>全町的な説明会を実施していない等の理由から一旦は議会で否決され、平成23年3月の小磯幼稚園の廃園及び4月からの私立幼稚園の開園という計画が結果的に1年先送りとなりました。</p> <p>□今後の私立幼稚園選考委員会では、私立幼稚園誘致のための条件整備や選考方法等の具体的な内容についての検討が必要となります。</p>
<p>⑤月京幼稚園整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海大学大磯病院の拡張計画に協力することにより、大磯町生沢に幼稚園を移転し整備しました。 ・6月に工事請負契約締結の議会承認を得、7月より工事に着手し、年度内完成を目指しました。 ・新幼稚園の名称を決定するため選考委員会を開催し、「たかとり幼稚園」に決定しました。 ・建設に係る調整会議を37回開催しました。 ・工事に係る生沢住民に対する説明会を2回、入園、園区、通園方法等に関する保護者説明会を2回開催しました。 ・12月議会において、「たかとり幼稚園」への名称変更の議会承認を得ました。 ・平成22年4月3日に竣工式を執り行いました。 	<p>C</p>	<p>○新幼稚園の名称を公募により決定することができ、地域にゆかりのある「たかとり幼稚園」と命名できました。</p> <p>○園舎設計のコンセプトにあったように、園児の安全性を第一に考え、木の持つ温もりや採光・通風を考えた居心地の良い空間を前面に出した幼稚園が完成しました。</p> <p>□外構工事については、3月の天候不順のため完成が4月2日になりました。</p> <p>□太陽光発電設備工事については、国庫補助金の交付決定の遅れ及び全国的な一斉発注による品不足で工事を完了することができませんでした。</p>

(3) 教育委員による評価

①次世代育成支援地域行動計画策定

<p>評 価</p>	<p>現計画を改定し、後期の5カ年計画が単なる少子化対策に止まらず子どもに関する政策、施策を総合的に推進するための次世代育成支援地域計画について、子育てを取り巻く社会環境やニーズの変化、前期行動計画の状況等を踏まえ、住民と行政一体となってより良い子育て支援環境を目指した計画の見直し・策定ができたことは評価できる。</p> <p>また、アンケート調査、パブリックコメントの実施や議会への報告など幅広く周知したことは評価できるが、一方で、計画着手が遅れたことがパブリックコメントの募集期間にも影響し、幅広く反映できなかったことは反省すべきである。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>今後は、アンケート結果に見られる子育て支援に対する多様な要望について柔軟な対応が必要である。そのためにも、日ごろから点検・見直しの視点を持って計画を実施していく必要がある。</p> <p>また、平成21年度に新たに子育て支援室が新設され、人事異動及び業務の移行等、物理的な要因はあったものの、重要な案件への取組みが遅れたことは反省すべきである。パブリックコメントの件数も3件と少なく、計画へのフィードバックができ</p>

	たとは言いがたい。今後、他の計画策定などにおいてもスケジュール管理を徹底してすすめることが重要である。
--	---

②子育て支援総合センター整備

評 価	<p>孤独になりがちな子育ての時期に、母子ともに人とふれあえる環境ができたことは、家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりや多様な保育サービスなど子育て支援を目指す基盤ができたことは評価できる。</p> <p>また、工事から関係規則の制定まで精力的に取り組んだことは評価できるが、様々な要因があるとはいえ、年度内完成を厳守すべきであった。従って、B評価は妥当である。</p>
改善事項等	<p>寄付者の意向を取り入れた運営の工夫やファミリーサポート機能を含め、多くの利用を促進するためのPR活動（センターだより等の発行）に積極的に取り組むべきである。また、「つどいの広場」「各種講座及び教室」の開催にあたっては、参加者の自主的活動へとつながるよう努めるべきである。</p> <p>また、東部地区における「つどいの広場」設置については、子育て支援総合センターの状況も参考とし十分検討していくべきである。</p>

③幼稚園保育園の連携

評 価	<p>機構改革に伴い、幼稚園・保育園が同じ所管になったことのメリットを十分に生かし、お互いに教育的観点から補完しあい、幼児の指導を進めていくことは相互に良い影響を与えるものと思われる。特に、小学校の通学区域等を考慮して連携することはより一層効果的であるといえ、その点でこの取り組みは評価できる。</p> <p>また、月京幼稚園と国府保育園の交流が49回実施されたことは評価できるが、たかとり幼稚園と国府幼稚園との交流については、平成22年度の年間事業計画策定時に連携事業を組み入れ、これに基づき具体的に進めると記載すればなお良かった。</p>
改善事項等	<p>幼稚園保育園の連携をより効果的にするため、いわゆる幼保一元化とは切り離し、お互いの職員同士が地域の子どもを育てるという共通認識のもと協力して進めていくべきである。</p> <p>幼・保一元化については、それぞれの設置運営基準や教育内容を法律的に見直すなど多くのハードルがある中で議論することはあまり得策とは言えない。現在、総花的な議論になっている点を改め、現行の法律のまま、幼稚園・保育園を同一敷地内に設置し、職員や幼児同士の交流や施設の共同など、教育内容を合わせて教育、保育する「幼稚園保育園の一体化」の議論を行うべきである。</p>

④町立幼稚園の統合及び私立幼稚園の誘致

評 価	<p>紆余曲折の末、長年の懸案事項であった町立幼稚園の統合問題が、大磯町立幼稚園の将来構想に基づき、各関係機関と鋭意折衝を重ね東部地区(大磯・小磯幼稚園)に</p>
-----	--

	<p>おける統廃合及び私立幼稚園の誘致の方針が決定され、誘致に向けての条件整備ができたことなど十分評価できる。</p> <p>ただ、様々な要望や課題についての整理と分析が結果的に活かせず計画が1年先送りとなったことはその進め方に課題が残り反省すべきである。従って、B評価は妥当である。</p>
改善事項等	<p>今後は私立幼稚園誘致に向けての条件整理や選考方法など具体的な内容の検討が必要となるが、様々な要望や課題を的確に整理、分析し、関係者と協議を図りながら計画達成に向け進めていきたい。</p> <p>引き続き、保護者の不安を解消するためにも、できる限り誘致に向けての進捗状況を周知していく必要がある。</p> <p>また、西部地区についても東部地区の状況を踏まえ、適切な時期に検討していく必要がある。</p>

⑤ 月京幼稚園整備

評 価	<p>平成22年4月開園に間に合ったことや、地域に相応しい名称も命名でき、この点は評価できる。また、地域住民への説明会など保護者や住民に配慮しながら事業進行したことは、開園後のことも考慮すると適切であった。</p> <p>ただ、色々な要因はあったにせよ年度内竣工ができなかったことは反省すべきである。従って、C評価は妥当である。</p>
改善事項等	<p>今後は、園舎設計、建築のコンセプトを生かした幼稚園運営、保育実践を期待したい。また、今後のたかとり幼稚園と国府保育園との交流については、平成22年度の年間事業計画策定時に連携事業を組み入れ、幼稚園・保育園連携について具体的に取り組むべきである。</p> <p>課題としては、太陽光発電設備工事を含め、年度内に完成しなかったことを今後にかさすべきである。</p>

3 生涯学習

《基本方針》

「思いやりのある心豊かな人づくり」を目標に「生涯を通して学習できる環境づくり」を施策の方針として、生涯学習施設の有効利用と学習機会の充実に努めるとともに、地域住民と一体となった活動を目指します。

《目標》

1. ライフステージに応じた学習機会や情報提供を推進するとともに、自主学習支援体制の充実、青少年の健全育成、芸術・文化活動の活性化を図ります。
2. 人権に対する正しい理解と認識を深め、差別や偏見のないおもいやりのある「まち」を目指します。
3. 文化財・埋蔵文化財の保全を図るため、資料収集及び保護・活用を推進します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ① 生涯学習館の有料化及び利便性の向上
- ② 生涯学習人材登録制度の充実と学習要望に対応した各種講座の開催
- ③ 文化財・埋蔵文化財の資料収集、保護・活用

(2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
①生涯学習館の有料化及び利便性の向上 ・施設の利便性向上を図るため、休館日の見直しを行いました。 ・全庁的な施設の有効活用を図るための検討を踏まえ、使用料設定、町内外別料金、減免規定等について検討しました。 ・施設有料化に際し、大磯町生涯学習館条例および大磯町生涯学習館条例施行規則の所要の改正に係る手続きを進めました。 ・施設有料化実施を平成22年6月からとし、実務上必要な準備作業を進めました。	A	○利用者へのサービス向上の一環として、平成21年6月から、毎週月曜日休館から、月1回（第4月曜日）のみの休館に改めることにより、利用の拡大を図ることができました。 □有料化に向けた実務上の準備作業は22年度へ継続していきます。
②生涯学習人材登録制度の充実と学習要望に対応した各種講座の開催	A	

<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習人材登録者の募集を継続し、神奈川県生涯学習情報システムへの登録作業を行うとともに、町ホームページでの情報提供の整備を進めました。 ・生涯学習の機会を希望する人にとって活用しやすい台帳の整備を進めるとともに、サロンドカルチャー制度等との整合を図りました。 ・町民の生涯学習への要望に応えるべく各種講座の開催を行いました。 ・熟年世代を対象としたOISO学び塾、移動科学教室や生涯学習人材登録者活用講座等を新たに開設し、また、パソコン講座の開催回数の増加を図り、あらゆる世代を対象とした講座等を開催しました。 		<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習人材登録への申込者の募集を継続し、神奈川県生涯学習情報システム（生涯学習情報が検索できる PLANET かながわ）への登録作業を行い、また町ホームページでの検索コーナーの整備等により、利用しやすい環境の提供が可能となりました。 ○制度の周知及び利活用を図るため、既存のサロン・ド・カルチャー制度と人材登録制度との連携を実施しました。また既登録者にアンケート調査を行い、町民の学習要望に即した生涯学習講座を開催し、人材登録制度の活用を図ることができました。 □今後もアンケート調査等により講座参加者の要望を把握し、講座等の企画に反映させていく必要があります。
<p>③ 文化財・埋蔵文化財の資料収集、保護・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財資料等の保存・活用を図るため、蓄積された資料の整理を行いました。 ・文化財資料の保存と周知活用の用に供するため文化財調査報告書を刊行しました。 ・町内文化財の周知を図るため、東部地区における指定文化財案内看板の整備を行いました。 ・文化財を火災から守るため、施設防火点検及び消火訓練・搬出訓練を行いました。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急雇用創出事業を活用し、文化財等資料整理委託を実施することにより資料整理の促進を図ることができました。 ○大磯町文化財調査報告書第 48 集『慶覚院蔵木造地蔵菩薩坐像』を刊行しました。 ○文化財の周知啓発等の促進を図るため、町内（東部地区）に存在する指定文化財について、案内看板 15 基を設置しました。 ○旧吉田茂邸の焼失から 1 年を経た 3 月に初の試みとして、消防署・消防団による文化財消防訓練を開催したことは、文化財保護の観点から大変有意義なことでした。

(3) 教育委員による評価

①生涯学習館の有料化及び利便性の向上

<p>評価</p>	<p>休館日を見直し施設利用の利便性を図ったことにより、その利用状況は対前年度比 12%増であり(6 月以降の 9 ヶ月間で)、平年度ベースに換算すると 45%の大幅な利用増が期待でき、この点では評価できる。</p> <p>ただ、実務上の準備作業を 22 年度も継続する必要があるとしているが、21 年度行った準備作業についての総括を行い、積み残しとなった項目についての明記が欲しい。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>有料化へ向けた実務上の準備作業を滞りなく行うことと住民への周知を十分行うことによりトラブル等のないように努めるべきである。</p>

	<p>また、平成 22 年 6 月からの有料化に向けた準備作業を進め、平成 22 年度も継続して進める必要があるとしているが、平成 21 年度実施した作業項目全てについての検証を行い、その成果と課題を明確にし、平成 22 年度に継続する内容を具体的に提示すべきである。</p>
--	--

②生涯学習人材登録制度の充実と学習要望に対応した各種講座の開催

<p>評 価</p>	<p>町民の学習要望に即した生涯学習講座を開設したことは、受講者のみならず、人材登録者の研鑽の場にもなり十分期待が持てる。また、町生涯学習人材登録と神奈川県生涯学習情報システム (PLANET かながわ) とのリンケージや町 HP の整備などの活動は平成 20 年度からの継続活動であるが、平成 20 年度の改善事項を踏まえ他の制度との連携を図り進めた結果、利用者ニーズに応えた展開ができたことは評価できる。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>住民の学習ニーズを常に把握し、それに応えるような講座等の企画に反映させるべきである。また、生涯学習課としての新企画提案も積極的にすべきである。</p> <p>また、本制度が少しずつ充実、定着しつつあるとはいえ、未だその制度の認知度は低いと考える。町広報紙等色々な機会を利用し、人材の掘り起こしと魅力ある講座の開設に向けたニーズの把握に努めるべきである。</p>

③文化財・埋蔵文化財の資料収集、保護・活用

<p>評 価</p>	<p>文化財調査報告書第 48 集の刊行、東部地区の指定文化財の案内板を設置できたことは評価できる。このような作業は、今は目の目を見なくても、着実に整備を継続していくことに意味がある。</p> <p>また、国の平成 21 年度一次補正予算の基金を利用し、町の文化財等の保存に向けた取組みができたことや町内文化財の周知や啓発活動など所期の目的どおり遂行できたことは評価できる。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>初の試みである消防署、消防団との文化財防火訓練は継続的に実施したい。</p> <p>本基金は平成 23 年度までの 3 ヶ年の基金であり、平成 22 年度以降も有効に活用するため、対象文化財・埋蔵文化財のプライオリティー付けによる活動に努めるべきである。また、その活用方法については郷土資料館など関係機関と連携し検討すべきである。</p>

4 図書館

《基本方針》

図書館は、町民の知る自由の保障及び情報提供活動の向上を図り、町民の知的要求や活動形態の多様化に対応するよう図書館サービスを展開するとともに、「大磯町子ども読書活動推進計画」に基づく、大磯の子どもたちの読書環境の整備に努めます。

《目標》

1. 「より便利に、より自由に、より役立つ」図書館を目指し、安全で快適な環境づくりと、人と資料を結び町民の多様なニーズに応えた利用促進を図るとともに、町民との協働により図書館活動の活性化と町民の生涯学習活動の支援を図ります。
2. 「大磯町子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちがあらゆる機会と場所において、自主的に読書に親しめる環境、親しむ環境の整備に取り組むとともに、教育機関との連携を図ります。
3. 地域・行政資料の収集整理と資料の活用を図り、郷土資料館との連携のもと、地域情報の提供に努めます。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①図書館利用サービスの向上
- ②児童講座、ブックスタートなど子ども読書活動の推進
- ③地域資料の活用と地域情報の提供

(2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
①図書館サービスの向上 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館本館での昼食スペースとして、H21.5月の連休明けから、外から出入りできる町史編纂作業室を午前11時から午後2時までの時間、開放しました。 ・図書館本館の開館時間をH21.6月から、午前9時30分を午前9時に拡大しました。 ・図書館会議室等の使用について、H21.12月議会において図書館の設置、管理条例の一部改正条例が承認され、H22.3月教育委員会定例会においては規則の一部改正条例が承認されました。 ・図書館協議会においてH21.6.18に近隣の図書館窓口の業務委託状況について視察をしました。 ・ふるさと雇用再生特別交付金を活用した、「図書館“知”の拠点づくり事業」が承認され、図書館窓口等の業務委託をH22.1.5から開始しました。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館単独施設としては珍しい、昼食スペースを作ることができました。 ○条例規則の改正を行い、次年度から全施設の統一的な施設利用が見込めることができました。 ○図書館窓口業務等の業務委託により図書館業務の効率化を図ることができました。 □昼食スペースには防犯カメラの設置がなく、今後カメラの導入を検討する必要があります。 □H22.1.5から開始した窓口業務等委託では、国府分館は対象館としなかったため、分館は直営となっています。H24.3月以降の図書館窓口等の業務委託について早期からの検討が必要です。

<p>②児童講座、ブックスタートなど子ども読書活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校4年生の学級招待（大磯小学校6月、国府小10月）、幼稚園・保育園の年長児の図書館見学、ブックスタート（全6回）、おはなしと紙芝居等、各事業を実施しました。 ・スタンプラリー2009（H21.4.23～H22.3.31）に約180名の参加がありました。 ・おはなしの入門講座を全4回で開催し、毎回約20名の参加がありました。 ・児童文学者のお話を親子で聞く児童文学講演会を開催し15名の参加がありました。 ・講座、講演会の受講者にアンケート調査を実施しました。 ・寄贈本の学校提供を行いました。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○計画に基づいた各事業を円滑に運営しました。読書に親しむことができる環境を整備することで、読書の楽しみや大切さを子どもたちに伝えることに努めました。 ○昭和62年から継続している小学校4年生対象の学級招待事業も20年余経過し、子どもたちにとって図書館の存在が明確になってきています。 □大磯町子ども読書活動推進計画の基本方針としていた県計画の更新を視野に入れ、第2次計画策定を検討する必要があります。 □本を読む子と読まない子の差が大きく、読むことへのきっかけづくりのブックトークを学校図書室と連携していく必要があります。
<p>③地域資料の活用と地域情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H21.3に刊行した大磯町史ダイジェスト版を600冊増刷しました。 ・生涯学習課と連携し、町の歴史に親しむ大磯町史ダイジェスト版刊行記念講座を3回開催しました。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケート結果にも町の歴史に興味があり、講座の開講を望む声が多く寄せられています。 □集積した町史関連の人材と資料類の活用を検討する必要があります。

(3) 教育委員による評価

① 図書館利用サービスの向上

<p>評価</p>	<p>利用者の多様なニーズに応え、開館時間の拡大による住民サービスの向上は、読書環境の充実の観点から意義あることである。また、昼食スペースの設置は利用者の利便性が一層高まった。しかし、一般的に図書館では飲食が禁止されているところがほとんどで、他の利用者に戸惑いが出ないように周知することも必要である。</p> <p>さらに、平成20年度の改善事項を踏まえ、図書館施設の条例・規則の改正ができたこと、国の平成21年度一次補正予算の基金を利用し、図書館窓口等の業務を民間委託することにより業務の効率化が図られたことは評価できる。</p> <p>しかし、基金の額の関係から国府分館は対象外となったことは分かるが、平成22年度からの国府分館を盛込むか否かの検討の軌跡も記すべきである。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>昨年度指摘された「利用者の声を聞く」（アンケート）について、窓口業務の委託に関する利用者の声を把握するためにも早急の実施すべきである。また、安心・安全の観点から、防犯カメラの設置は重要課題である。</p> <p>また、本基金は平成23年度までの3カ年の基金であり、課題として指摘されているように平成24年度以降は、本業務委託の可否も含めた論議が必要である。従って、平成22年度から現行委託内容の精査と国府分館の在り方など検討を行うことが必要である。</p>

②児童講座、ブックスタートなど子ども読書活動の推進

<p>評 価</p>	<p>子どもたちの発達段階に合わせ、本への興味や読書するきっかけづくり等、事業活動の工夫により、読書の楽しさを継続的に体験できることは大変良いことである。特に、小学校4年生の学級招待20余年の実績は大いに評価できる。また、「大磯子ども読書活動推進計画」に基づき、様々な取組みを実施し、所期の目的を達成できたことは評価できる。</p> <p>ただ、アンケート調査から得られた成果、課題の提示と対応についても記述すべきである。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>大磯町子ども読書活動推進計画の第2次計画策定にあたっては、県の計画の更新を踏まえ、新たな課題等も把握しながら取り組むべきである。その際、小学校4年生対象の学級招待事業に関しても、その軌跡を総括し、新たな方向性の検討も必要である。</p> <p>また、本を読む子と読まない子の差が大きいとの課題については、子どもの個性に起因するところもあり、本を読まない子を対象としたヒアリングを含めた調査も一つの方法であり、本を読む子とは異なるツールでの啓発も検討すべきである。</p>

③地域資料の活用と地域情報の提供

<p>評 価</p>	<p>大磯町史ダイジェスト版の増刷により町民や各関係者に対しPR活動を行うほか、関連各課と連携し記念講座を開催するとともに、町民のニーズに応える活動を実施したことは評価できる。</p> <p>ただ、ダイジェスト版の増刷が「どのように利用されその効果はどうだったか」の分析結果がほしかった。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>町史の歴史講座は町民の興味・関心も高く、継続的に開催してほしい。また、地域資料の活用を図り情報提供するために、郷土資料館とも連携し、大磯町ゆかりの人物に関する学習講座等の開設を要望したい。</p> <p>大磯町史ダイジェスト版増刷の「利用のされ方及び効果」についての分析をすべきである。また、平成20年度の課題では、歴史的資料の保存、活用の検討が必要とされており、改善事項でも同様な指摘がされているにもかかわらず、平成21年度においても同じ課題が記載されている。これまでの検討状況を踏まえ、平成22年度における検討へのフィードバックを行うべきである。</p>

5 郷土資料館

《基本方針》

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、資料の収集・保管、調査研究、展示、教育普及活動を行うとともに、地域住民と一体となった活動を目指します。

《目標》

博物館サービスを向上させ、地域住民にとって魅力があり、利用しやすい施設運営を目指します。

(1) 重点施策の中で、特に重要課題と捉えた施策

- ①郷土資料館リニューアルプランの推進
- ②文化財資料等の保存・活用
- ③伊藤博文没後 100 年記念事業の実施

(2) 課題別点検評価

達成状況 AA：達成（予定以上） A：達成（予定通り） B：予定より遅れたが達成 C：概ね達成
D：予定の半分程度達成 E：ほとんど進まず F：その他

実施状況	達成状況	成果（○）と課題（□）
<p>①郷土資料館リニューアルプランの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度において、資料館としてのさまざまな課題を含むリニューアル基本方針は作成済みですが、21年度は利用者からの声を直接聞き、今後のリニューアルプランに反映させるためにアンケート調査を実施したほか、引き続き、施設修繕の長期的な見直しを行いました。 ・リニューアルの構想にあわせて、城山公園や運動公園との連携を図るため大磯町公園施設等連絡会を立ち上げました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○大磯町内外、各世代から順調に回答を得ていることから、平成 22 年度においても継続してアンケートを実施し、リニューアルプランに反映させていきます。 ○スタンプラリーを実施するなど、リニューアルに向けて、各施設の連携を深めるとともに、利用者への施設周知が有効に作用し、入館者増にもつながりました。 □企画展開催期間中にアンケートを実施した場合、企画展に対する回答が目立ち、本来の設問主旨から若干離れてしまう傾向がみられるため、アンケート実施時期の設定に苦慮しました。また、アンケートの設問内容にも若干の検討課題がみられました。
<p>②文化財資料等の保存・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料館で受託中の大磯町指定有形文化財である木造神像（11 軀）について、毎年 1 軀ずつ保存処理を実施しています。21 年度においては、5 軀めとなる男神立像の保存処理を委託実施しました。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○保存処理の実施により、今後の展示・教育普及活動等にも活用可能な状態となりました。 □今後は、さらに状態の悪い個体、あるいは大型の個体となるため、費用がこれまでよりもかさむことが予想されます。

<p>③伊藤博文没後 100 年記念事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊藤博文没後 100 年の節目にあたり、伊藤博文の生涯と多くの業績をたどるとともに、伊藤博文と滄浪閣、大磯とのかかわりを中心に焦点をあてた展示を開催しました。 ・関連事業として、記念講演会 2 回、伊藤博文墓所をめぐる史跡ツアー 1 回、長州ファイブ上映会 6 回、ミュージアムトーク 44 回などを開催しました。なお、あわせて、ポスター、チラシ、展示図録を刊行しました。 	<p>AA</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○伊藤博文に関わる資料が目録化され、関係者・関係機関など幅広いネットワークを持つことができました。 ○展示入館者数や図録の販売数が予想を大きく上回る盛況であった他、神奈川県湘南地域県政総合センターの地域課題調整費により財政的な支援を受けることができたため、積極的に事業を推進することができ、町の PR や観光客の誘致にもつながりました。 □伊藤博文にかかわる資料のほとんどが個人所有であるため、今後の資料保存が懸念されます。また、今後の資料館活動の中で、伊藤博文をどのように位置づけ、生かしていくのか、リニューアル構想と関連付けて検討していく必要があります。
---	-----------	---

(3) 教育委員による評価

①郷土資料館リニューアルプランの推進

<p>評 価</p>	<p>リニューアルプランの内容の充実に向けて、大磯町内外、各世代から幅広く意見・ニーズを収集するほか、各施設と連携しそれぞれの機能と位置づけを理解するなどリニューアルプラン策定へフィードバックしたこと、また、城山公園など関連施設と絡めた在り方の検討に着手したことは評価できる。</p> <p>ただ、アンケート調査について、できるだけ多く収集したい意欲は理解するが、アンケート調査の取り方などにももう少し工夫があっても良かった。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>基本設計が出来上がった時点で、町民、利用者等の声を把握するための方策を立てるべきである。また、リニューアルプラン策定にあたっては、郷土資料館単体で考えるのではなく、城山公園など関連施設一体とした「全体像」と、全体像の中の「郷土資料館単体のあるべき姿」を併せて検討することが重要と考える。平成 21 年度立ち上げた連絡会などを有効に活用すべきである。</p>

②文化財資料等の保存・活用

<p>評 価</p>	<p>保存処理や復元に対する財源の裏づけが厳しい中、計画的な木造神像の保存処理の実施は評価できる。町の財産である文化財等の保存活動は、地道な活動であるが継続して実施していくことが重要である。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>経費については、予算獲得の努力を続けるべきである。また、できるだけ多く・早く文化財を保存していくべきであり、今後の保存処理については、他の施策も睨みながらの展開も必要である。</p>

③伊藤博文没後 100 年記念事業の実施

<p>評 価</p>	<p>記念事業実施にあたり、関係各方面への協力依頼や財政的援助を得るなど努力のあとが伺える。その結果として入館者数 7,000 名増など予想を大きく上回る成果があった。また、本事業実施の過程で得た「人や関係機関」は大きな財産となり、文化都市大磯、観光立町大磯に大きく貢献できたことは評価する。また、NHK 総合「NHK スペシャル プロジェクト Japan 日本と朝鮮半島」において伊藤博文の特集が組み入れ、改めて本事業の成果を認識したところである。従って、AA 評価は妥当である。</p>
<p>改善事項等</p>	<p>図書館と連携した事業として、大磯町ゆかりの人物等を紹介する企画展を継続的に実施していくことを期待する。</p> <p>すばらしい功績のある伊藤博文にゆかりのある資料のほとんどが学校・個人所有で、適切な場所での保存が必要である。また、伊藤博文の椅子(小学校所蔵)など町所有の資料について保存状態が悪いものが散見されることから、後世に伝えるためにも資料館のリニューアルと関連付けて検討すべきである。</p> <p>また、課題にあるように、本事業の結果を踏まえ大磯町として伊藤博文をどのように位置づけていくのか、今回得られた人脈などのネットワークをどう活かしていくのか、また、これらの意見も参考にするなどリニューアルプラン構想とも併せ検討すべきである。</p>

Ⅲ 資料編

1 関係法令

(1) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 27 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 3 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（通知）（抜粋）

（19 文科初第 535 号 平成 19 年 7 月 31 日 文部科学事務次官通知）

第一 改正法の概要

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととしたこと。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有するものの知見の活用を図ることとしたこと。（法第 27 条）

第二 留意事項

1 教育委員会の責任体制の明確化

①今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。

②現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取り組みを行っている場合は、その手法を活用しつつ、適切に対応すること。

③点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者からの意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

2 「教育委員会定例会議事録」掲載ホームページアドレス

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/kyouiku/teireikai/teireikai.html>

3 平成 21 年度教育委員会基本方針

平成 21 年 3 月 24 日大磯町教育委員会第 12 回定例会で決定

平成 18 年の教育基本法の改正を受け、いわゆる教育三法の改正が行われ、新たな教育に向けた取り組みが益々求められるようになりました。特に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正では、教育委員会の責任体制の明確化や体制の充実、教育行政における地方分権の推進等についての規定が整備されました。

大磯町では、簡素かつ効率的な行政組織を構築するための機構改革が進められ、改革重点事項の 1 つとして、スポーツ振興に関する事務を町部局へ、子育て支援に関する事務を教育委員会で実施することになりました。

大磯町教育委員会は、これらの法律改正と町の機構改革の趣旨を十分踏まえ、学校関係者、保護者及び地域住民との連携を深め、様々な教育課題や子育て支援に関する課題に取り組み、教育委員会活動のさらなる活性化に向け努力していきます。

《義務教育の基本方針》

現行学習指導要領の「生きる力」の理念や「大磯町第四次総合計画」の「心豊かな人を育てるまちづくり」の趣旨を踏まえる中で、新学習指導要領への移行を考慮し、確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成そして信頼される学校づくりの実現を通して、自己の生き方を見つめ、新しい時代を自ら切り拓くことのできる人づくりを目指します。

〔目標〕

1. 各学校では、創意工夫と新学習指導要領への移行を考慮した教育課程を編成し、特色ある学校づくりに努めるとともに、人間として心豊かでたくましい児童・生徒の育成を目指します。
2. 保護者や地域の方々と諸問題を共有しつつ協力体制を築き、これからの時代の要請に見合う大磯町にふさわしい教育活動の展開を図ります。
3. 「教職員としての使命の自覚」「教職員としての力量」を高めるために、教育研究所機能も活用し、研修・研究の機会や場を拡充します。さらに、校種間連携、他市町との広域的人事交流も推進します。

〔重点施策〕

1. 小学校・中学校
 - (1) 各学校において、TTや少人数指導、目標に準拠した評価等、指導法の工夫改善の研究に努め、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図ります。
 - (2) 小1プロブレムを解消し、よりきめ細かい指導を行うため、小学校第1学年で35人学級編制を行います。
 - (3) 児童生徒の連続的な学びと成長を図るため、小・中学校教員の授業の相互乗り入れや情報交換会の充実により小・中連携を進めます。
 - (4) 教職員の専門性や指導力向上につながる研修制度の整備と充実を図るとともに、教員免許更新制の導入に伴う免許状更新講習の受講に関し、遺漏がないよう周知徹底を図ります。
 - (5) 学習指導要領の改訂に伴う移行措置の趣旨を踏まえ、各学校で編成された教育課程の実施を支援します。
 - (6) 特別支援教育の推進を図るため、教育支援員を配置するとともに、相談支援チーム体制を整備します。また、いじめ・不登校をはじめとする課題に対しても、その機能を活用し、教育相談及

び児童生徒指導の充実を図ります。

- (7) 開かれた学校づくりを進めるため、学校とPTA・地域・関係諸機関との協議・連携を図り、地域の教育力を活かす学習活動を行うとともに、学校内外における防犯・安全体制の一層の充実に努めます。
- (8) 学校水泳の実施に向け、実施場所や方法等について、引き続き検討してまいります。
- (9) 国府中学校校舎の耐震補強、大規模改修工事を実施します。

2. 教育研究所

- (1) 教育研究および情報ネットワークの拠点となるよう書籍類、研究資料等の収集・整理及び各種広報活動を推進します。
- (2) 教職員の自主的な研修ならびに調査・研究の充実を図るとともに、「大磯の自然ガイドブック(磯の生物編・仮称)」の作成に向け、準備を進めます。
- (3) 新学習指導要領に即した「社会科副読本」の改訂に向けた調査・準備を進めます。
- (4) 教職員を対象に事例研究や研修会を実施し、児童生徒指導上の諸問題の解決に向け、教職員の資質向上を図ります。
- (5) 教育研究所に配置しているスクールアドバイザーを中心に、心理的・情緒的な問題を抱えている子ども達に対する援助や指導を行い、その保護者や関係教職員に対する教育相談を行います。

《子育て支援の基本方針》

「安心して子どもを産み、育てられる子育て環境づくりの促進」、「家庭、地域、行政が連携し子どもを育てていく体制づくりの促進」、「多様な保育サービスなど子育て支援機能の充実」を基本方針とし、子ども達一人ひとりにはもとより、その保護者に対する子育て支援の充実を目指します。

〔目標〕

1. 幼稚園では、新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、保護者や地域の方々との協力体制を築く中で、心豊かでたくましい園児の育成を目指します。
2. 保育園では、保育所保育指針の趣旨を踏まえ、子どもの年齢と成長に合わせたねらいを定め、適切な保育の実施を行います。
3. 幼稚園と保育園の交流を深め、就学前幼児の育成を見据えた中で、幼保連携を推進します。
4. 子育て支援サービスの充実を図り、身近な場所で子育て支援を受けられるまちをめざします。また、家庭や地域の教育力を高め、子どもたちがいきいきと成長できるまちをめざします。

〔重点施策〕

1. 町立幼稚園では、教育支援員の配置や預かり保育を実施し、幼稚園教育の充実に努めます。
2. 町立保育園では、引き続き障害児保育を実施し、保育サービスの充実に努めます。
3. 町立幼稚園・保育園内外の防犯・安全体制づくりを推進します。
4. 町立保育園での3歳児以上の幼児組については、完全給食を実施します。
5. 町立・私立幼稚園及び保育園から小学校へ円滑に移行できるように、幼稚園及び保育園が小学校と協力し、各種行事を共同で開催するなどにより連携を図ります。
6. 放課後子どもプランの実現に向け、「放課後子ども教室推進事業」と「放課後児童健全育成事業」を一体的あるいは連携して実施できるよう研究を進めます。
7. 大磯町次世代育成支援地域行動計画後期計画を策定します。

8. 子育て支援センターの機能とファミリーサポートセンターを併設した(仮称)子育て支援総合センターを建設します。
9. 通院にかかる小児医療費の助成対象を現在の小学1年修了前から小学6年修了前までに拡大します。
10. 新月京幼稚園の建設工事、国府幼稚園園舎の耐震補強及び改修工事を実施します。
11. 大磯幼稚園・小磯幼稚園の統合について、課題や民間幼稚園の誘致等も視野に入れた検討会の立上げなど具体的な事務を進めます。

《生涯学習の基本方針》

「思いやりのある心豊かな人づくり」を目標に「生涯を通して学習できる環境づくり」を施策の方針として、生涯学習施設の有効利用と学習機会の充実に努めるとともに、地域住民と一体となった活動を目指します。

〔目標〕

1. ライフステージに応じた学習機会や情報提供を推進するとともに、自主学習支援体制の充実、青少年の健全育成、芸術・文化活動の活性化を図ります。
2. 人権に対する正しい理解と認識を深め、差別や偏見のないおもいやりのある「まち」を目指します。
3. 文化財・埋蔵文化財の保全を図るため、資料収集及び保護・活用を推進します。

〔重点施策〕

1. 町民一人ひとりが意欲を持ち、自由に学習機会を選択し、学ぶことができる生涯学習の一助として導入した、大磯町生涯学習人材登録制度の充実に努めます。
2. 生涯学習館については、町民サービスの公平性を保つため、館の有料化を行うとともに、生涯学習活動の拠点施設として、利用者の利便性を図るため、開館日の拡充や時間制を導入します。
3. 県生涯学習情報システム「PLANET かながわ」を活用し、各種講座情報や学習・文化・スポーツ・ボランティア団体に関する生涯学習情報の整備を進め、町民の利用促進を図ります。
4. 町民ニーズに対応した生涯学習講座を開催します。
5. 芸術・文化の活性化を図るため、おおいそ文化祭やおおいそ美術展を、公共施設等を利用しながら引き続き開催します。
6. 人権に対する正しい理解と認識を深めるため、人権教育講演会を開催し、人権啓発活動を推進します。
7. 町内に所在する歴史的な建造物保存のため、国登録有形文化財建造物又は町指定有形文化財となりえる候補について、登録実現に向けた情報の収集に努めます。
8. 文化財資料等の保存・活用を図るため、蓄積された資料の整理を行うとともに、文化財調査報告書を刊行します。

《図書館の基本方針》

図書館は、町民の知る自由の保障及び情報提供活動の向上を図り、町民の知的要求や活動形態の多様化に対応するよう図書館サービスを展開するとともに、「大磯町子ども読書活動推進計画」に基づく、大磯の子どもたちの読書環境の整備に努めます。

〔目標〕

1. 「より便利に、より自由に、より役立つ」図書館を目指し、安全で快適な環境づくりと、人と資料を結び町民の多様なニーズに応えた利用促進を図るとともに、町民との協働により図書館活動の活性化と町民の生涯学習活動の支援を図ります。
2. 「大磯町子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちがあらゆる機会と場所において、自主的に読書に親しめる環境、親しむ環境の整備に取り組むとともに、教育機関との連携を図ります。
3. 地域・行政資料の収集整理と資料の活用を図り、郷土資料館との連携のもと、地域情報の提供に努めます。

〔重点施策〕

1. 図書の情報・検索など図書館利用サービスの向上を図るため、コンピュータシステムを更新します。
2. 図書館開館時間や休憩スペースの確保など施設利用の拡充を図ります。
3. 負担の公平性の確保を図るため、会議室等の利用料及び減免基準等について見直しを図ります。
4. 図書館の効果的な管理運営を図るため、図書館窓口業務等の委託化について検討します。
5. 図書館本館北側壁面及び屋根の改修整備工事を実施し、利用者に安全で快適な環境の提供に努めます。
6. 児童サービスのボランティア講座を開催し、ボランティアの養成と支援を図り、町民との協働を推進します。
7. 児童講座の開催、ブックスタート、学校・幼稚園・保育園等への支援など子ども読書活動を推進します。

〈郷土資料館の基本方針〉

館のテーマである「湘南の丘陵と海」に基づき、資料の収集・保管、調査研究、展示、教育普及活動を行うとともに、地域住民と一体となった活動を目指します。

〔目標〕

博物館サービスを向上させ、地域住民にとって魅力があり、利用しやすい施設運営を目指します。

〔重点施策〕

1. 資料の保存、活用を図る一環として、引き続き木造神像の保存処理を行います。
2. ホームページを活用した活動状況などの情報提供を行うとともに、社会教育施設として生涯学習活動の場の提供に努めます。
3. 常設展示では取り扱うことのできない分野を補うため、企画展及び特別展を開催します。
4. 常設展示室のリニューアル、老朽化した施設の計画的な改修、運営のあり方など館の整備運営基本方針について検討します。
5. 明治時代を代表する政治家で、大磯に居を構えた伊藤博文が没して 100 年を迎えることから、特別展示事業を行うとともに、氏の人物像や大磯との関わりについて、記念講演会を開催します。

平成22年度（平成21年度対象）

教育委員会点検・評価報告書

発行者 大磯町教育委員会

編集者 子ども育成課

〒255-8555 大磯町東小磯183

☎ : 0463-61-4100 / FAX : 0463-61-1991

ホームページアドレス

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/kyouiku/kyouiku.html>

発行 平成22年9月